

3. 私立・専門図書館に対するアンケート調査

3-1. 調査の概要

(1) 調査の趣旨及び目的

民間企業等での図書館における司書の採用状況や従事している業務内容等について把握するため、図書館法第2条に基づく私立図書館(旧民法第34条の法人が設置する図書館)及び民間企業内の資料・情報部門(図書室)や特定分野の資料を重点的に収集・整理・保管している専門図書館に対してアンケート調査を行った。

(2) 調査の対象

対象としたのは以下の2種類の図書館である。

①図書館法第2条に基づく私立図書館(全24館、悉皆調査)

②民間企業内の図書館・図書室や大学・研究機関等の専門図書館

…「専門情報機関総覧 2006」(専門図書館協議会編)より、地方議会、大学・付属研究所、学会・協会、民間企業、美術館・博物館等における図書館・図書室等から約300館を無作為抽出した。

	地方議会	大学・ 附属研究所	学会・協会・ 団体	民間企業体	美術館・ 博物館
全施設数	250	503	201	253	191
抽出数	54	108	43	54	41

(3) 調査の方法・時期

■調査方法

アンケート票はエクセルファイル形式で作成した。

各図書館に対し、HP からダウンロードする形式でアンケート票を配布し、回答はエクセルファイルに直接入力してもらい、メールにてファイル添付により回収した。

■調査時期

平成20年11月～平成21年3月

(4) 調査項目

- 私立・専門図書館の設置者等
- 私立・専門図書館の運営体制
- 司書有資格者の採用・異動状況
- 司書有資格者の配置・活用状況
- ボランティアの活用状況
- 司書有資格者の資質向上方策
- 今後の司書有資格者の活用方策

(5) 回収状況

アンケートの回収状況は以下のとおりである。

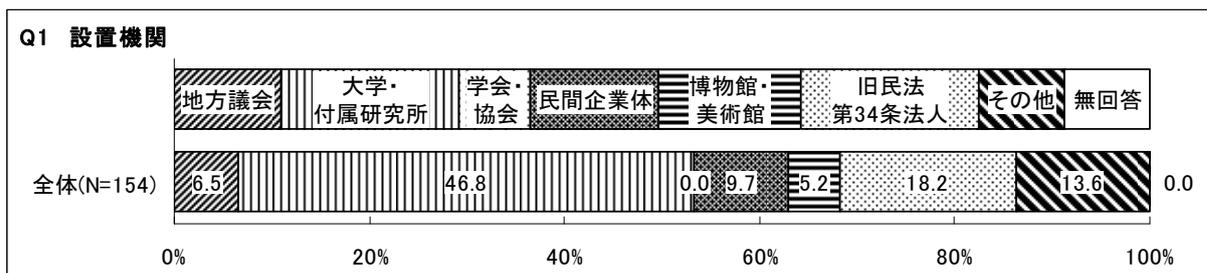
	私立図書館	専門図書館
配布数	24	300
回収数	14	140
回収率	58.3%	46.7%

3-2. 私立・専門図書館に対するアンケート調査の結果

(1) 私立・専門図書館の設置者等

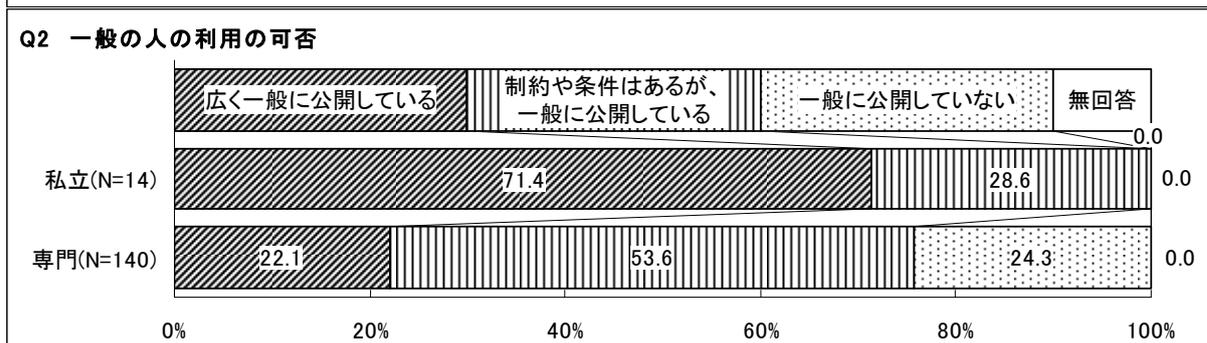
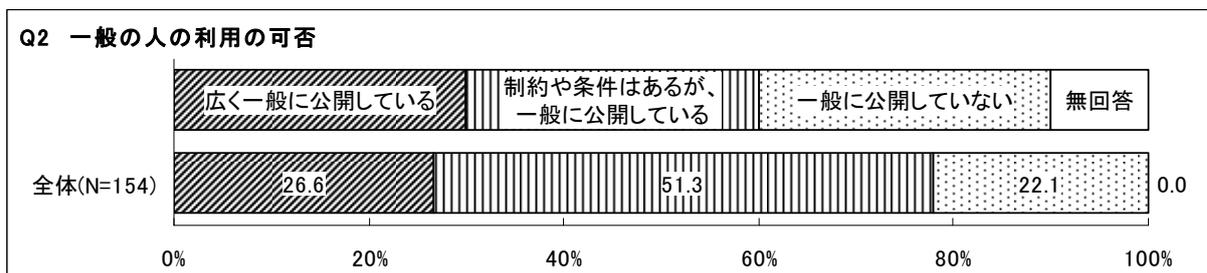
① 私立・専門図書館の設置者

- ❖ 回答のあった私立・専門図書館について、設置者別にみると、「大学・付属研究所」が 46.8%と約半数を占め、次いで「旧民法第 34 条法人(社団法人・財団法人等)」が 18.2%、「民間企業体」が 9.7%、「地方議会」が 6.5%、「博物館・美術館」が 5.2%となっている。



② 私立・専門図書館の一般利用の可否〔全体及び私立・専門別〕

- ❖ 私立・専門図書館についての一般への公開状況をみると、制約・条件付きも含めれば、一般の人が利用できるよう公開している図書館の方が多く、77.9%（「広く一般の人が利用できるよう公開している」26.6%、「利用できるサービスに制約や条件はあるが、一般の人でも利用できるよう公開している」51.3%）と、8割近くを占めている。
- ❖ 各館の職員や設置機関の職員のみが利用し、「一般に公開していない」図書館は 22.1%である。
- ❖ これについて、私立・専門別にみると、私立図書館の約3割は制約や条件付きでの一般公開となっているが、これも含めれば全ての私立図書館は一般公開されている。これに対して、専門図書館をみると、一般に公開していない図書館が 24.3%と、4分の1は非公開であり、また公開されている中でも多くは制約・条件付きの公開である。

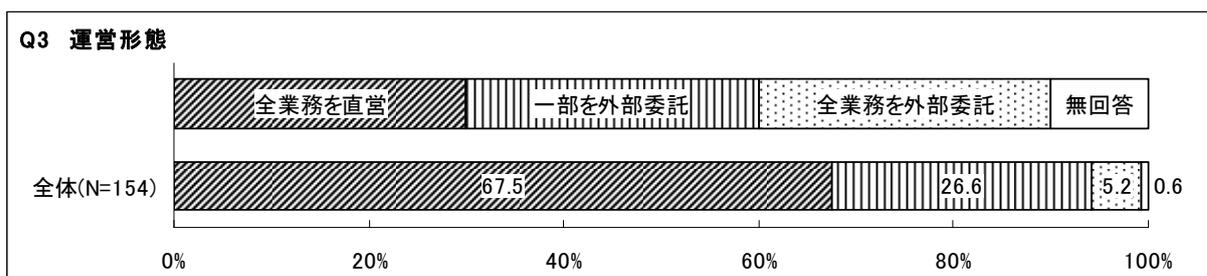


(2) 私立・専門図書館の運営体制

① 私立・専門図書館の運営形態

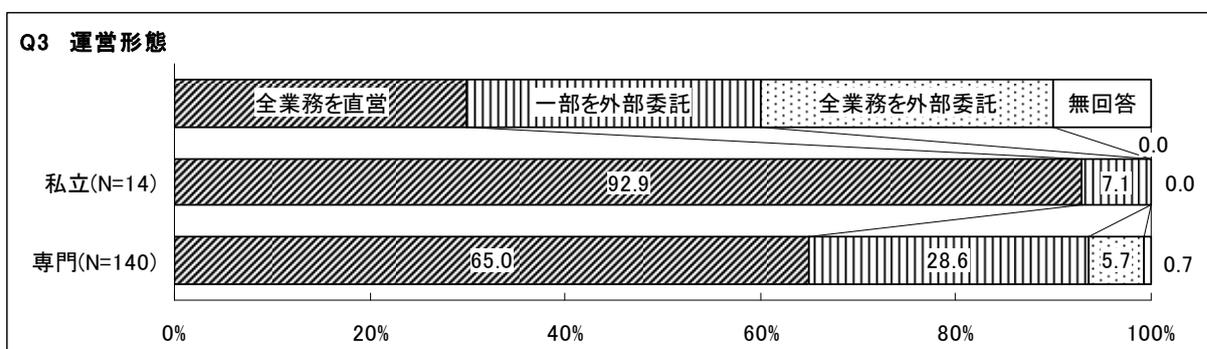
■全体

- ❖ 私立・専門図書館の運営形態をみると、「全業務を直営」で運営している図書館が多く、67.5%となっている。一方、運営を外部に委託している図書館は 31.8%となっており、その内訳は「一部を外部委託」している図書館が 26.6%、「全業務を外部委託」している図書館が 5.2%となっている。



■私立・専門別

- ❖ 図書館の運営形態について、私立・専門別にみると、私立図書館は大半が「全業務を直営」で運営している(92.9%)が、これに対して専門図書館では、一部又は全業務を外部委託しているケースが3割以上みられる。



② 私立・専門図書館の職員体制

i) 平均職員数及び司書(補)有資格者数の推移

■全体

- ❖ 平成 15 年度から平成 19 年度までの私立・専門図書館の職員体制についてみると、職員数について回答のあった図書館のうち8割前後の図書館において1人以上の司書(補)有資格者が配置されており、その割合は年々高くなっている。
- ❖ 私立・専門図書館の職員体制について、平成 15 年度から平成 19 年度までの1館あたりの平均職員数をみると、毎年度平均約 12 人程度で推移している。
- ❖ また、1館あたりの司書(補)有資格者数については、毎年度平均5人程度となっており、私立・専門図書館の職員の半数近くは司書(補)有資格者である。

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
A 全回答館数	154館	154館	154館	154館	154館
B 職員数に回答のあった図書館 (Aに対する割合 (B÷A))	150館 (97.4%)	151館 (98.1%)	152館 (98.7%)	152館 (98.7%)	152館 (98.7%)
C 司書(補)有資格者がいる図書館 (Bに対する割合 (C÷B))	115館 (76.7%)	118館 (78.1%)	120館 (78.9%)	125館 (82.2%)	125館 (82.2%)
D Bの図書館における職員数の合計 (1館あたりの平均職員数 (D÷B))	1,824人 (12.2人)	1,854人 (12.3人)	1,867人 (12.3人)	1,886人 (12.4人)	1,859人 (12.2人)
E Dのうち司書(補)有資格者の合計 (1館あたりの平均司書(補)有資格者数 (E÷B))	752人 (5.0人)	775人 (5.1人)	769人 (5.1人)	789人 (5.2人)	787人 (5.2人)

■私立・専門別

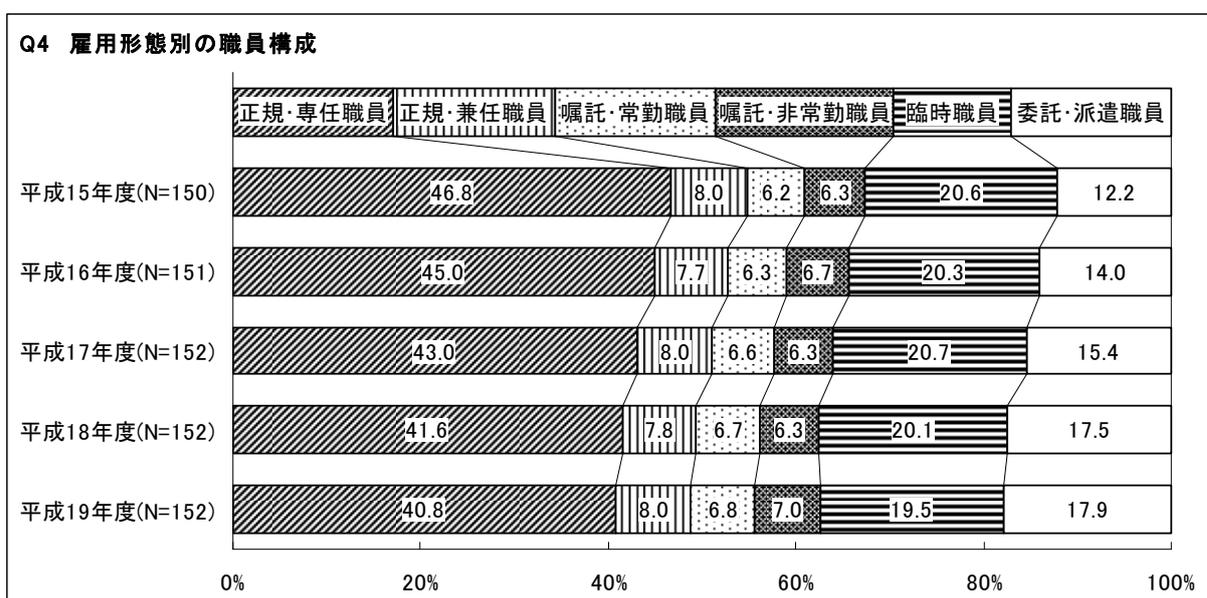
- ❖ 職員数について回答のあった図書館のうち、司書(補)有資格者がいる図書館の割合を、私立・専門別にみると、平成19年度は私立図書館では84.6%、専門図書館では82.0%と、司書の配置状況に大きな差はみられず、また平成15年度からの推移についても私立・専門いずれも配置率は高くなる傾向がみられるが、特に私立図書館の方がより司書の配置が充実しつつあることがわかる。
- ❖ 図書館の職員数について、私立・専門別にみると、1館あたりの平均職員数は私立図書館が6人前後で推移しているのに対して、専門図書館では平均12～13人と、私立図書館の2倍の人員体制となっている。
- ❖ また、これらの職員のうち司書(補)有資格者数について私立・専門別にみると、私立図書館は1館平均2～3人程度であるが、専門図書館は1館平均5人前後となっている。
- ❖ なお、経年的な変化をみると、私立図書館では、職員数及び司書(補)有資格者数のいずれもわずかながら年々増加している傾向がみられるが、専門図書館ではほぼ一定で推移している。

		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
私立	A 全回答館数	14館	14館	14館	14館	14館
	B 職員数に回答のあった図書館 (Aに対する割合 (B÷A))	13館 (92.9%)	13館 (92.9%)	13館 (92.9%)	13館 (92.9%)	13館 (92.9%)
	C 司書(補)有資格者がいる図書館 (Bに対する割合 (C÷B))	9館 (69.2%)	9館 (69.2%)	11館 (84.6%)	11館 (84.6%)	11館 (84.6%)
	D Bの図書館における職員数の合計 (1館あたりの平均職員数 (D÷B))	80人 (6.2人)	79人 (6.1人)	78人 (6.0人)	82人 (6.3人)	84人 (6.5人)
	E Dのうち司書(補)有資格者の合計 (1館あたりの平均司書(補)有資格者数 (E÷B))	36人 (2.8人)	35人 (2.7人)	37人 (2.8人)	39人 (3.0人)	41人 (3.2人)
専門	A 全回答館数	140館	140館	140館	140館	140館
	B 職員数に回答のあった図書館 (Aに対する割合 (B÷A))	137館 (97.9%)	138館 (98.6%)	139館 (99.3%)	139館 (99.3%)	139館 (99.3%)
	C 司書(補)有資格者がいる図書館 (Bに対する割合 (C÷B))	106館 (77.4%)	109館 (79.0%)	109館 (78.4%)	114館 (82.0%)	114館 (82.0%)
	D Bの図書館における職員数の合計 (1館あたりの平均職員数 (D÷B))	1,744人 (12.7人)	1,775人 (12.9人)	1,789人 (12.9人)	1,804人 (13.0人)	1,775人 (12.8人)
	E Dのうち司書(補)有資格者の合計 (1館あたりの平均司書(補)有資格者数 (E÷B))	716人 (5.2人)	740人 (5.4人)	732人 (5.3人)	750人 (5.4人)	746人 (5.4人)

ii) 雇用形態別の職員構成比の推移

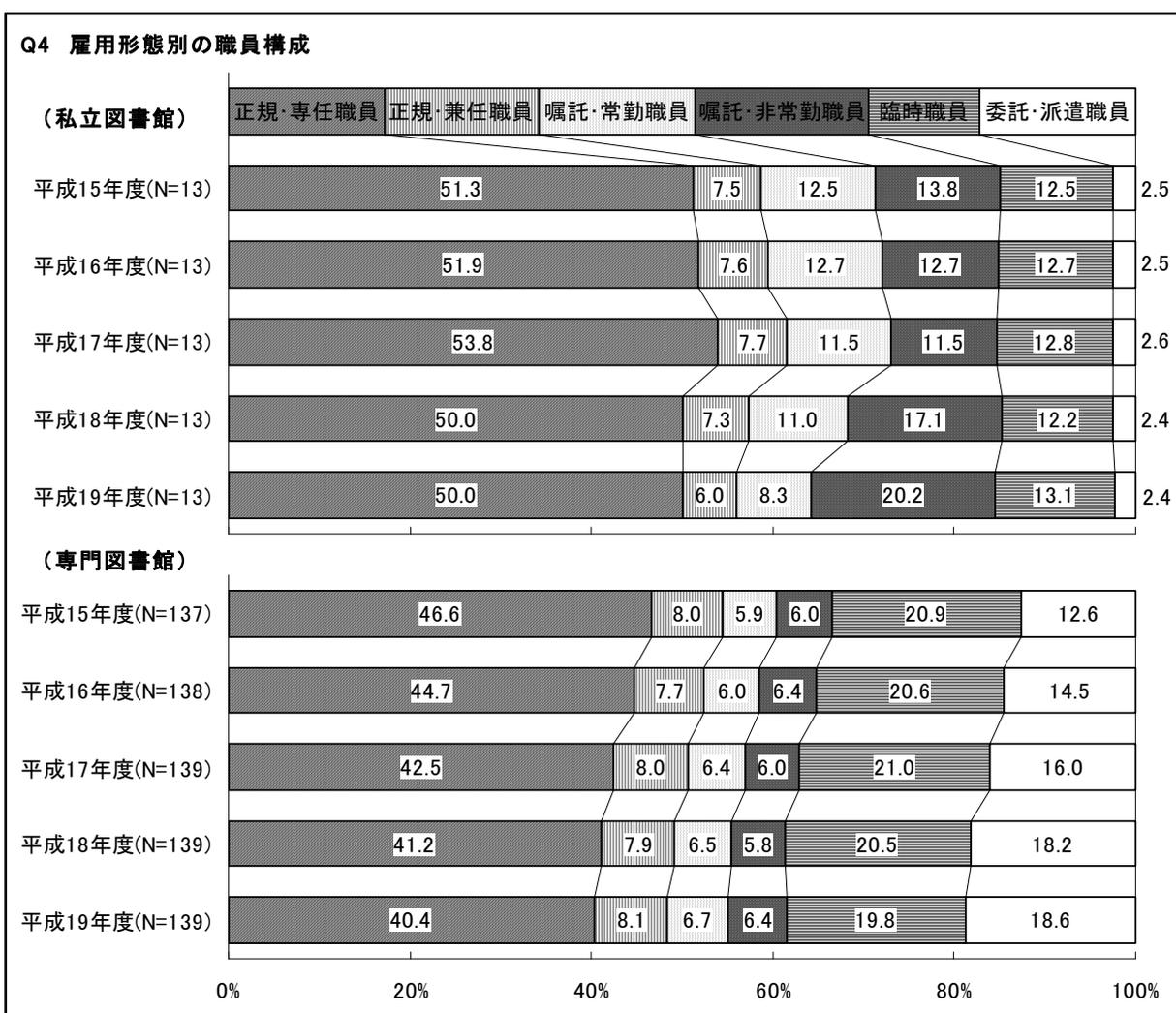
■全体

- ❖ 私立・専門図書館の平成19年度の職員体制について、雇用形態別にみると、「正規・専任職員」の割合が40.8%と最も高い割合を占めており、次いで「臨時職員」が19.5%、「委託・派遣職員」が17.9%となっている。
- ❖ また、年度毎の構成比の推移をみると、「正規・専任職員」の割合は平成15年度の46.8%から平成19年度には40.8%と、5年間で6ポイント低下している。この一方、「委託・派遣職員」の割合は平成15年度の12.2%から平成19年度には17.9%と、わずかずつではあるが高くなっている。
- ❖ その他の職員区分については、構成比はほぼ一定で推移している。



■私立・専門別

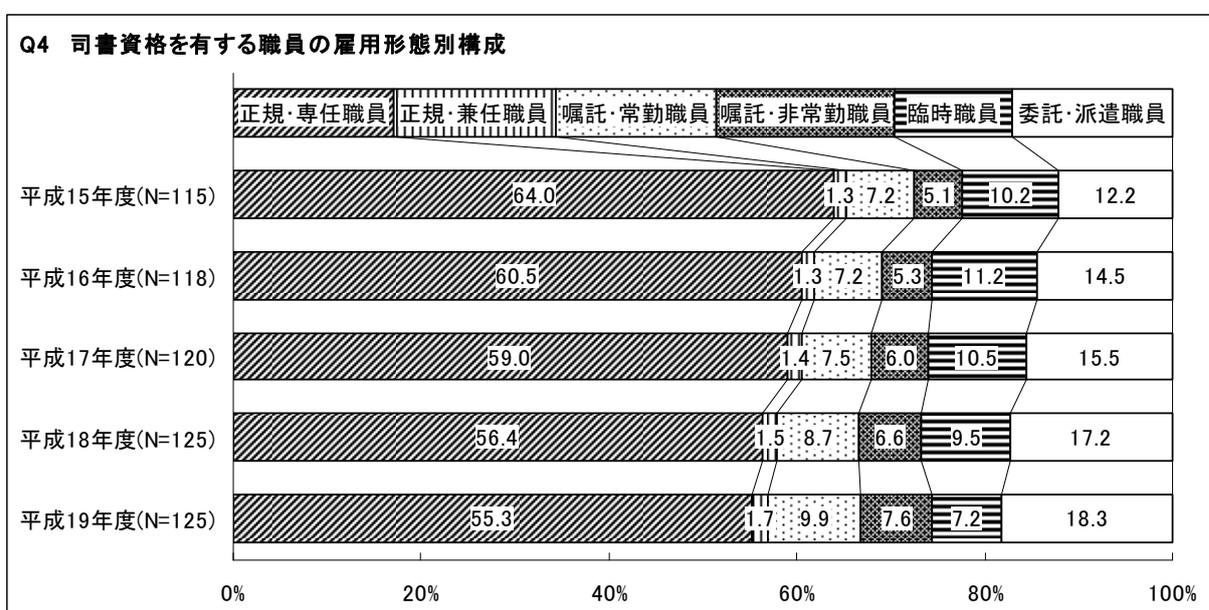
- ❖ 私立・専門図書館の平成 19 年度の雇用形態別職員構成比について私立・専門別にみると、私立図書館、専門図書館ともに「正規・専任職員」が最も高い割合を占めているが、特に私立図書館の方が高い割合となっている。
- ❖ それ以外の職員区分の構成比をみると、私立図書館では、「嘱託・非常勤職員」の割合が 20.2%と高いが、専門図書館ではその割合は 6.4%と低く、「臨時職員」及び「委託・派遣職員」の割合がそれぞれ 2割近くを占めている。
- ❖ 雇用形態別職員構成比の年度毎の推移をみると、私立図書館については、「正規職員」の割合はほぼ一定であるが、「嘱託職員」については、平成 15 年度には常勤と非常勤がほぼ同率であったものが平成 19 年度には常勤 8.3%に対して非常勤 20.2%と、「嘱託・非常勤職員」の構成比が高くなっている。
- ❖ 一方、専門図書館についてみると、「正規職員」の割合は年々低下しており、これに対して「委託・派遣職員」の割合が高くなっている。



iii) 司書(補)有資格者の雇用形態別構成比の推移

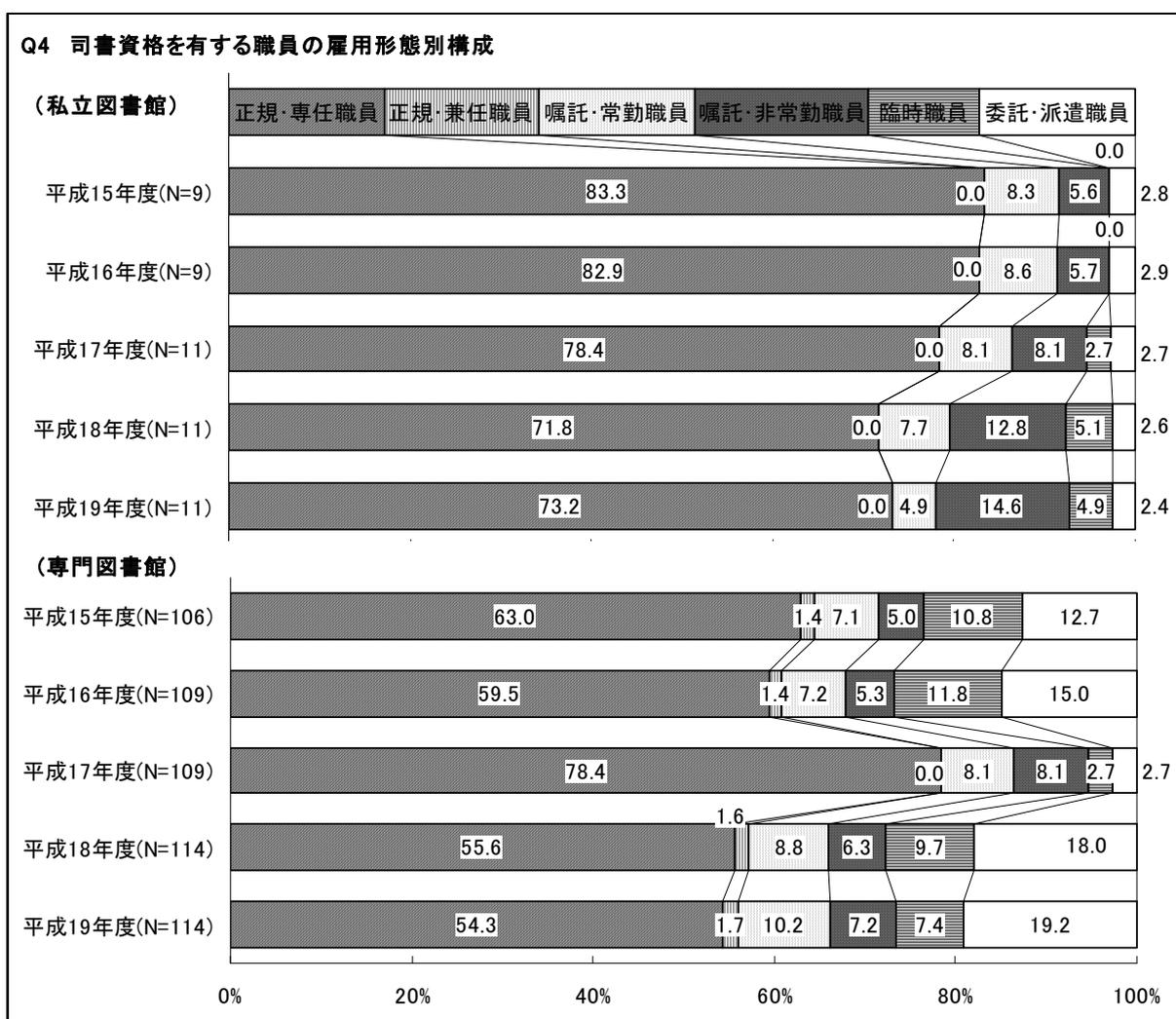
■全体

- ❖ 私立・専門図書館における平成 19 年度の職員体制のうち、司書(補)有資格者について雇用形態別構成比をみると、「正規・専任職員」が 55.3%と最も高い割合を占めている。また、「嘱託職員(常勤+非常勤)」として配置されている司書(補)有資格者の割合は、17.5%（「嘱託・常勤職員」9.9%、「嘱託・非常勤職員」7.6%）と約2割近くを占めており、これと同程度で「委託・派遣職員」が 18.3%を占めている。
- ❖ 司書(補)有資格者の雇用形態別構成比について、年度毎の推移をみると、「正規・専任職員」の割合が平成 15 年度の 64.0%から平成 19 年度には 55.3%と低下傾向にある一方、「嘱託職員(常勤+非常勤)」及び「委託・派遣職員」の割合がそれぞれ増加しており、司書(補)有資格者の非正規としての配置が増えていることがわかる。



■私立・専門別

- ❖ 私立・専門図書館における平成 19 年度の司書(補)有資格職員の雇用形態別構成比について、私立・専門別にみると、私立図書館では「正規・専任職員」の割合が 73.2%と最も高く、次いで「嘱託・非常勤職員」が 14.6%、「嘱託・常勤職員」が 4.9%となっている。
- ❖ これに対して専門図書館では、「正規・専任職員」の割合が 54.3%と最も高いものの、その割合は私立図書館よりは低く、「嘱託・常勤職員」(10.2%)や「委託・派遣職員」(19.2%)の割合が高くなっている。
- ❖ これらについて年度毎の推移をみると、私立図書館では「正規・専任職員」の割合について低下傾向がみられ、逆に「嘱託・非常勤職員」及び「臨時職員」の割合が高くなっている。
- ❖ 専門図書館でも、「正規・専任職員」の割合はやや低くなる傾向がみられ、その代わりに「嘱託・非常勤職員」及び「委託・派遣職員」の割合が高くなっている。



iv) 職員区分別構成比の推移

■全体

- ❖ 私立・専門図書館の職員体制について、職員区分別構成比をみると、「その他の職員」の割合が最も多く、およそ半数を占めている。次いで、「司書有資格者」の割合が約4割となっている。
- ❖ また、これらの年度毎の推移をみると、年度間で大きな変化はなく、ほぼ同程度で推移している。

		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
職員数に回答のあった図書館		154館	154館	154館	154館	154館
図書館における職員数の合計		1,824人 (100.0%)	1,854人 (100.0%)	1,867人 (100.0%)	1,886人 (100.0%)	1,859人 (100.0%)
館長・分館長		206人 (11.3%)	204人 (11.0%)	208人 (11.1%)	209人 (11.1%)	206人 (11.1%)
うち司書有資格者		22人 (1.2%)	24人 (1.3%)	25人 (1.3%)	26人 (1.4%)	25人 (1.3%)
司書有資格者		720人 (39.5%)	740人 (39.9%)	735人 (39.4%)	749人 (39.7%)	750人 (40.3%)
司書補有資格者		10人 (0.5%)	11人 (0.6%)	9人 (0.5%)	14人 (0.7%)	12人 (0.6%)
その他		888人 (48.7%)	899人 (48.5%)	915人 (49.0%)	914人 (48.5%)	891人 (47.9%)
再掲	司書(補)有資格者 (館長含む)	752人 (41.2%)	775人 (41.8%)	769人 (41.2%)	789人 (41.8%)	787人 (42.3%)
	その他の職員 (館長含む)	1,072人 (58.8%)	1,079人 (58.2%)	1,098人 (58.8%)	1,097人 (58.2%)	1,072人 (57.7%)

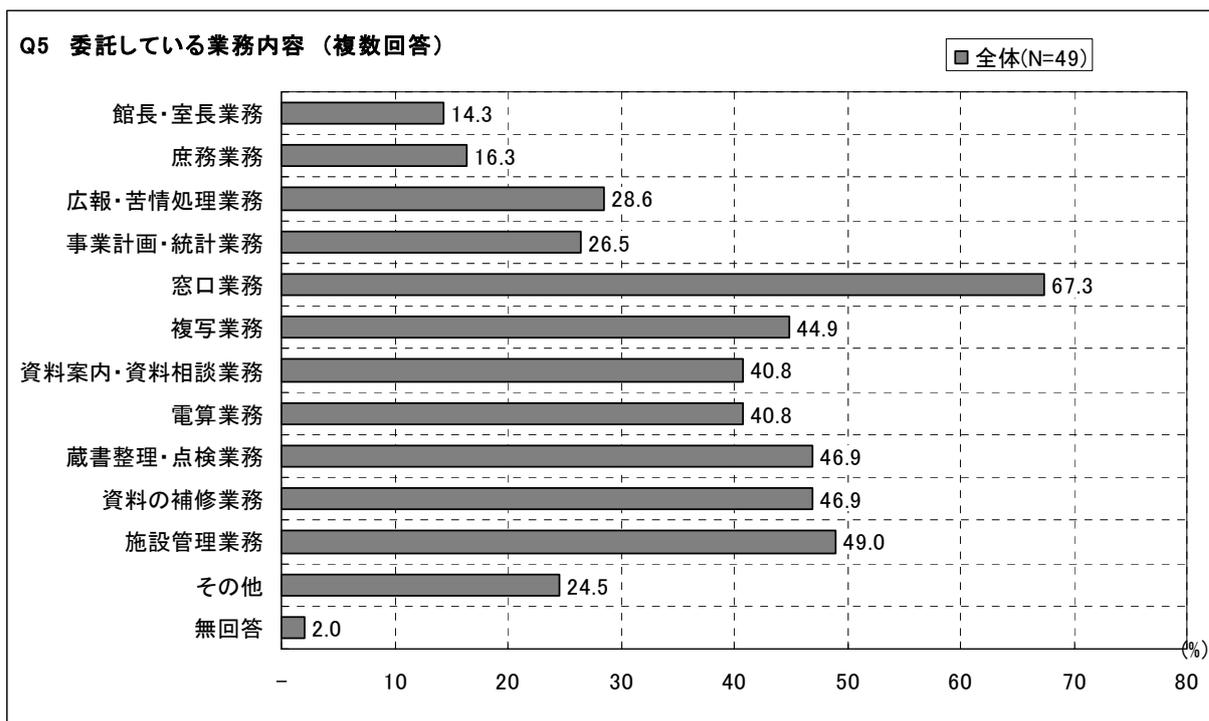
■私立・専門別

❖ 私立・専門図書館の職員区分別構成比について、私立・専門別にみると、両者の間に大きな違いはみられない。

		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	
私 立	職員数に回答のあった図書館	14館	14館	14館	14館	14館	
	図書館における職員数の合計	80人 (100.0%)	79人 (100.0%)	78人 (100.0%)	82人 (100.0%)	84人 (100.0%)	
	館長・分館長	10人 (12.5%)	10人 (12.7%)	10人 (12.8%)	10人 (12.2%)	10人 (11.9%)	
	うち司書有資格者	1人 (1.3%)	1人 (1.3%)	2人 (2.6%)	2人 (2.4%)	2人 (2.4%)	
	司書有資格者	35人 (43.8%)	34人 (43.0%)	35人 (44.9%)	37人 (45.1%)	39人 (46.4%)	
	司書補有資格者	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	
	その他	35人 (43.8%)	35人 (44.3%)	33人 (42.3%)	35人 (42.7%)	35人 (41.7%)	
	再掲	司書(補)有資格者（館長含む）	36人 (45.0%)	35人 (44.3%)	37人 (47.4%)	39人 (47.6%)	41人 (48.8%)
	再掲	その他の職員（館長含む）	44人 (55.0%)	44人 (55.7%)	41人 (52.6%)	43人 (52.4%)	43人 (51.2%)
	専 門	職員数に回答のあった図書館	140館	140館	140館	140館	140館
図書館における職員数の合計		1,744人 (100.0%)	1,775人 (100.0%)	1,789人 (100.0%)	1,804人 (100.0%)	1,775人 (100.0%)	
館長・分館長		196人 (11.2%)	194人 (10.9%)	198人 (11.1%)	199人 (11.0%)	196人 (11.0%)	
うち司書有資格者		21人 (1.2%)	23人 (1.3%)	23人 (1.3%)	24人 (1.3%)	23人 (1.3%)	
司書有資格者		685人 (39.3%)	706人 (39.8%)	700人 (39.1%)	712人 (39.5%)	711人 (40.1%)	
司書補有資格者		10人 (0.6%)	11人 (0.6%)	9人 (0.5%)	14人 (0.8%)	12人 (0.7%)	
その他		853人 (48.9%)	864人 (48.7%)	882人 (49.3%)	879人 (48.7%)	856人 (48.2%)	
再掲		司書(補)有資格者（館長含む）	716人 (41.1%)	740人 (41.7%)	732人 (40.9%)	750人 (41.6%)	746人 (42.0%)
再掲		その他の職員（館長含む）	1,028人 (58.9%)	1,035人 (58.3%)	1,057人 (59.1%)	1,054人 (58.4%)	1,029人 (58.0%)

③ 私立・専門図書館における図書館業務の委託状況

❖ 図書館の運営の一部又は全業務を外部委託している私立・専門図書館(49 館)において、その委託内容をみると、「窓口業務(受付、案内、登録、貸出、返却、予約、督促、相互貸借等)」が最も多く、67.3%となっている。次いで、「施設管理業務(館・室の開閉、閲覧室等の管理等)」(49.0%)が約半数と高いほか、「蔵書整理・点検業務(選書候補推薦、蔵書整理、配架、除架資料候補推薦、蔵書点検等)」、「資料の補修業務(図書・雑誌の汚損・破損の修理、CD の研磨等)」及び「複写業務」が4割強と、比較的高い割合となっている。



※各業務内容については以下のとおり

館長・室長業務…図書館の運営統括等

庶務業務…業務の経理、人事、事務用品等の調達等

広報・苦情処理業務…一般公開時等

事業計画・統計業務…事業計画・報告書作成、各種統計処理等

窓口業務…受付、案内、登録、貸出、返却、予約、督促、相互貸借等

複写業務

資料案内・資料相談業務…書架案内・レファレンス

電算業務…館内電算システム、利用者用インターネット等維持管理等

蔵書整理・点検業務…選書候補推薦、蔵書整理、配架、除架資料候補推薦、蔵書点検等

資料の補修業務…図書・雑誌の汚損・破損の修理、CD の研磨等

施設管理業務…館・室の開閉、閲覧室等の管理等

④ 私立・専門図書館の蔵書数

■全体

- ❖ 平成15年度から平成19年度の間、私立・専門図書館における1館あたりの平均図書数をみると、約182,000～187,500冊程度となっている。また、年度毎の推移をみると、平成16年度以降は増加傾向がみられる。
- ❖ 平成15年度から平成19年度の間、私立・専門図書館における1館あたりの平均雑誌数をみると、4,000誌前後となっており、5年間でおよそ500誌(3,755誌→4,238誌)増加している。

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
A 全回答館数	154館	154館	154館	154館	154館
B 図書数に回答のあった図書館 (Aに対する割合 (B÷A))	138館 (89.6%)	139館 (90.3%)	141館 (91.6%)	143館 (92.9%)	145館 (94.2%)
C 雑誌数に回答のあった図書館 (Aに対する割合 (C÷A))	129館 (83.8%)	128館 (83.1%)	131館 (85.1%)	132館 (85.7%)	135館 (87.7%)
D Bの図書館における図書数の合計 (1館あたりの平均図書数 (D÷B))	25,874,398冊 (187,496冊)	25,348,678冊 (182,365冊)	25,801,509冊 (182,989冊)	26,298,146冊 (183,903冊)	26,883,972冊 (185,407冊)
E Cの図書館における雑誌数の合計 (1館あたりの平均雑誌数 (E÷C))	484,451誌 (3,755誌)	519,292誌 (4,057誌)	549,601誌 (4,195誌)	564,074誌 (4,273誌)	572,194誌 (4,238誌)

■私立・専門別

- ❖ 図書館の蔵書数について私立・専門別にみると、図書・雑誌いずれも専門図書館の方が規模が大きく、図書数に関しては、専門図書館が私立図書館の5倍、雑誌数に関しては、専門図書館が私立図書館の7～8倍となっている。

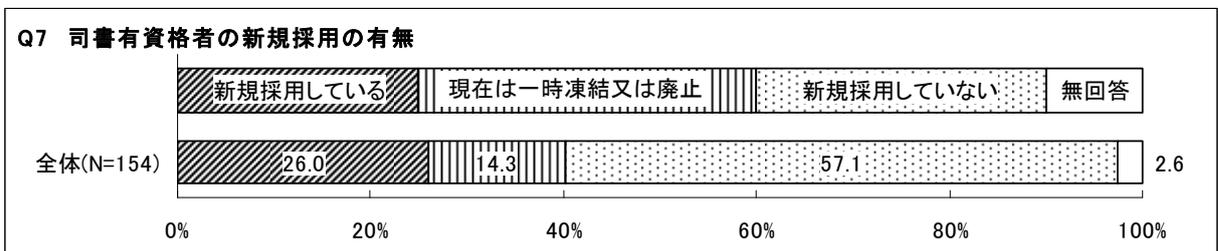
		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
私立	A 全回答館数	14館	14館	14館	14館	14館
	B 図書数に回答のあった図書館 (Aに対する割合 (B÷A))	14館 (100.0%)	14館 (100.0%)	14館 (100.0%)	14館 (100.0%)	14館 (100.0%)
	C 雑誌数に回答のあった図書館 (Aに対する割合 (C÷A))	10館 (71.4%)	9館 (64.3%)	10館 (71.4%)	9館 (64.3%)	10館 (71.4%)
	D Bの図書館における図書数の合計 (1館あたりの平均図書数 (D÷B))	440,198冊 (31,443冊)	479,311冊 (34,237冊)	491,438冊 (35,103冊)	501,031冊 (35,788冊)	513,134冊 (36,652冊)
	E Cの図書館における雑誌数の合計 (1館あたりの平均雑誌数 (E÷C))	4,591誌 (459誌)	5,302誌 (589誌)	5,668誌 (567誌)	6,069誌 (674誌)	6,710誌 (671誌)
専門	A 全回答館数	140館	140館	140館	140館	140館
	B 図書数に回答のあった図書館 (Aに対する割合 (B÷A))	124館 (88.6%)	125館 (89.3%)	127館 (90.7%)	129館 (92.1%)	131館 (93.6%)
	C 雑誌数に回答のあった図書館 (Aに対する割合 (C÷A))	119館 (85.0%)	119館 (85.0%)	121館 (86.4%)	123館 (87.9%)	125館 (89.3%)
	D Bの図書館における図書数の合計 (1館あたりの平均図書数 (D÷B))	25,434,200冊 (205,115冊)	24,869,367冊 (198,955冊)	25,310,071冊 (199,292冊)	25,797,115冊 (199,978冊)	26,370,838冊 (201,304冊)
	E Cの図書館における雑誌数の合計 (1館あたりの平均雑誌数 (E÷C))	479,860誌 (4,032誌)	513,990誌 (4,319誌)	543,933誌 (4,495誌)	558,005誌 (4,537誌)	565,484誌 (4,524誌)

(3) 司書有資格者の採用・異動状況

① 司書(補)有資格者の新規採用の有無

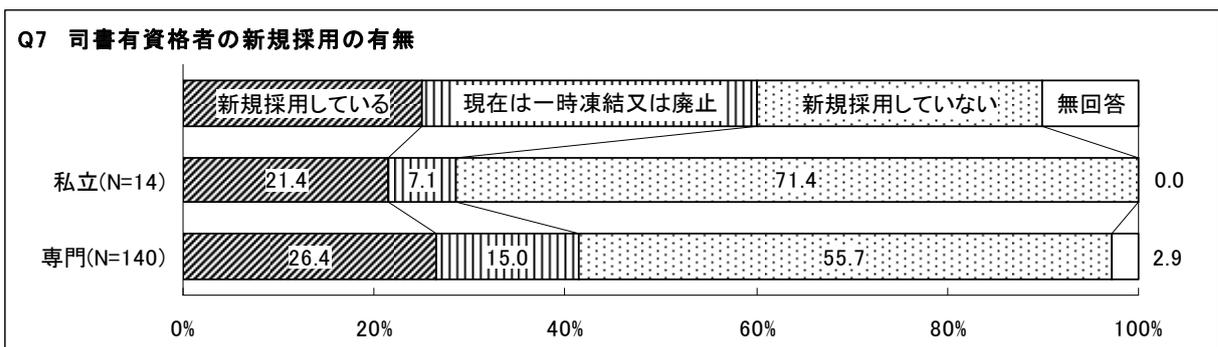
■全体

- ❖ 私立・専門図書館において、図書館に配属される職員としての司書(補)有資格者の新規採用状況を見ると、「新規採用している」図書館は 26.0%と全体の3割に満たず、「新規採用していない」図書館は 57.1%と半数を超えている。
- ❖ また、「(以前は司書(補)有資格者を新規採用していたが、)現在は一時凍結(中止)又は廃止している」図書館とあわせると、およそ7割の私立・専門図書館が、現在は司書(補)有資格者の新規採用を行っていないとしている。



■私立・専門別

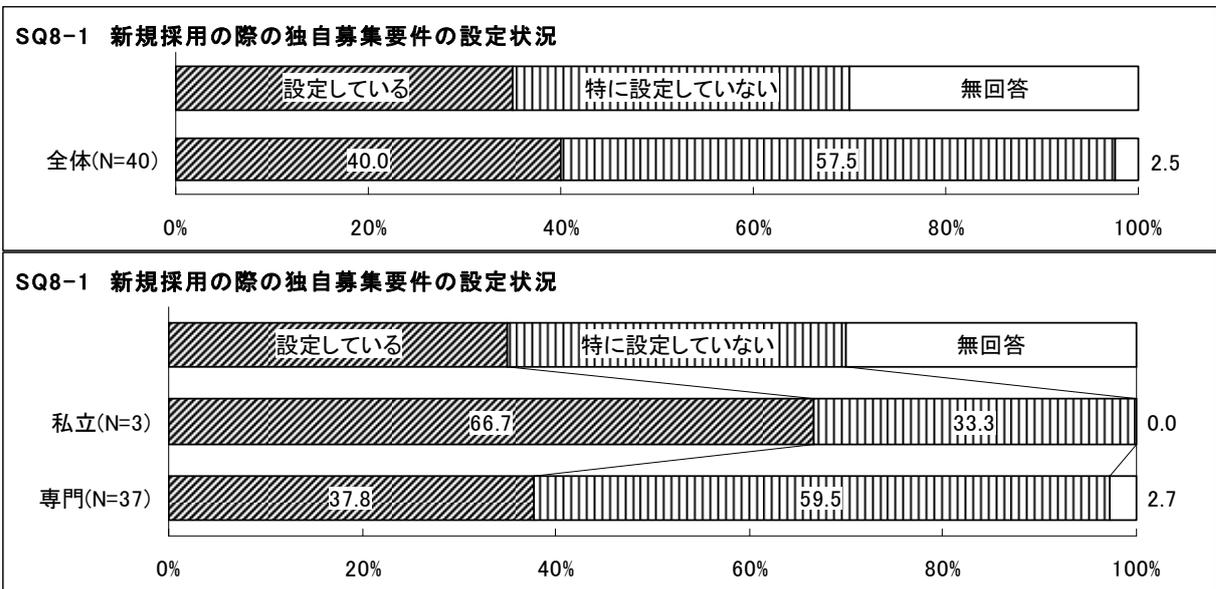
- ❖ 司書(補)有資格者の新規採用状況について、私立・専門別にみると、「新規採用している」割合は私立図書館が 21.4%、専門図書館の方が 26.4%と、専門図書館の方が高い。
- ❖ 逆に、「新規採用していない」とする図書館の割合は、私立図書館では7割を超えており、専門図書館よりも 15 ポイント近く高くなっている。



② 司書(補)有資格者の新規採用に係る条件等

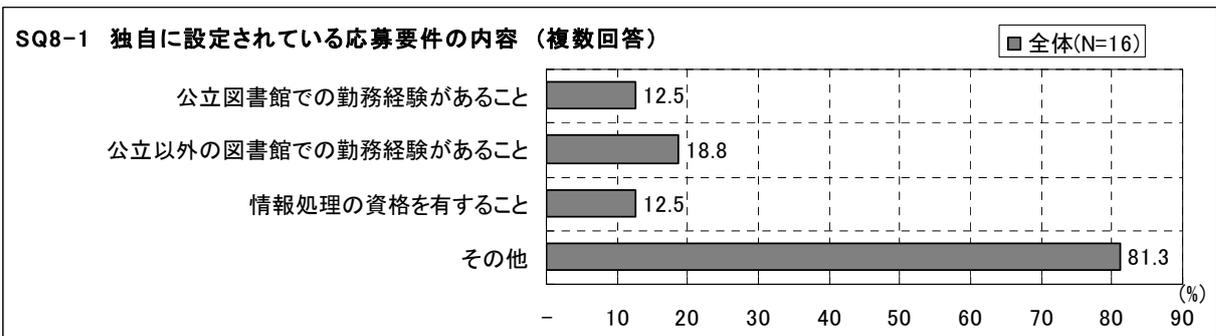
i) 新規採用の際の独自募集要件の設定状況〔全体及び私立・専門別〕

- ❖ 司書(補)有資格者の新規採用を行っている私立・専門図書館(40館)において、図書館職員の新規採用の際、司書(補)資格を有することのほか、何らかの募集要件を設定しているかどうかをみると、「特に(図書館職員として採用するにあたっての)独自要件は設定していない」とする図書館が57.5%と6割近くを占めており、募集要件を設定している図書館は4割となっている。
- ❖ これについて私立・専門別にみると、私立図書館については、独自要件を「設定している」図書館が56.7%と多いのに対して、専門図書館については、「特に独自要件を設定していない」図書館が59.5%と、私立図書館と逆の傾向がみられる。



ii) 独自に設定されている募集要件の内容

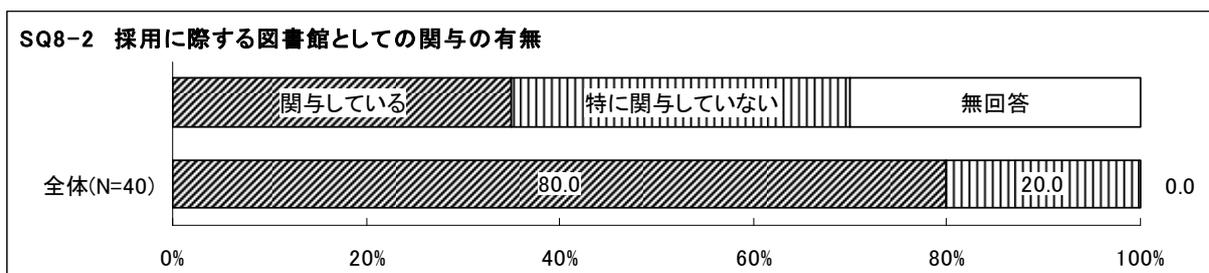
- ❖ 図書館職員の新規採用の際、独自要件を設定しているという私立・専門図書館(16館)について、司書(補)資格を有することのほか、独自に設定されている募集要件の具体的な内容をみると、「その他」として比較的多くからパソコンについての基本操作能力が挙げられている。



iii) 採用に際する図書館としての関与の有無

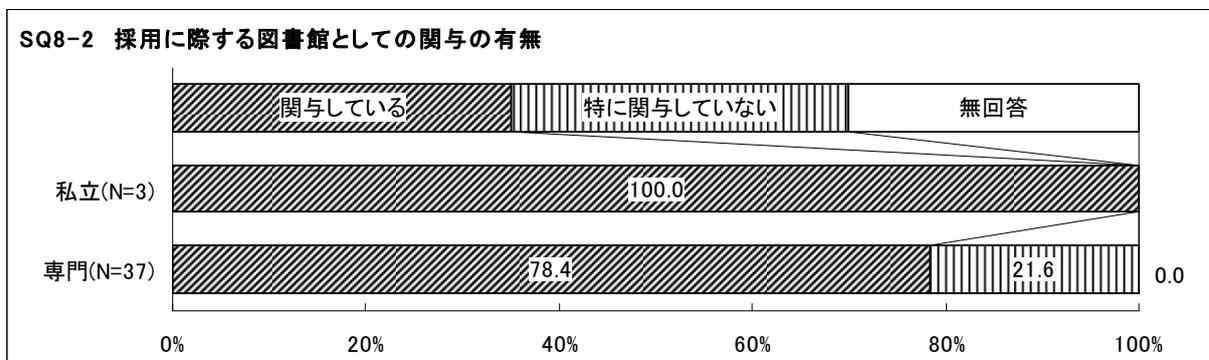
■全体

- ❖ 司書(補)有資格者の新規採用を行っている私立・専門図書館(40館)において、採用にあたっての図書館としての関与の有無をみると、図書館職員が司書(補)有資格者の採用に何らかの関与をしているケースが全体の8割を占めている。



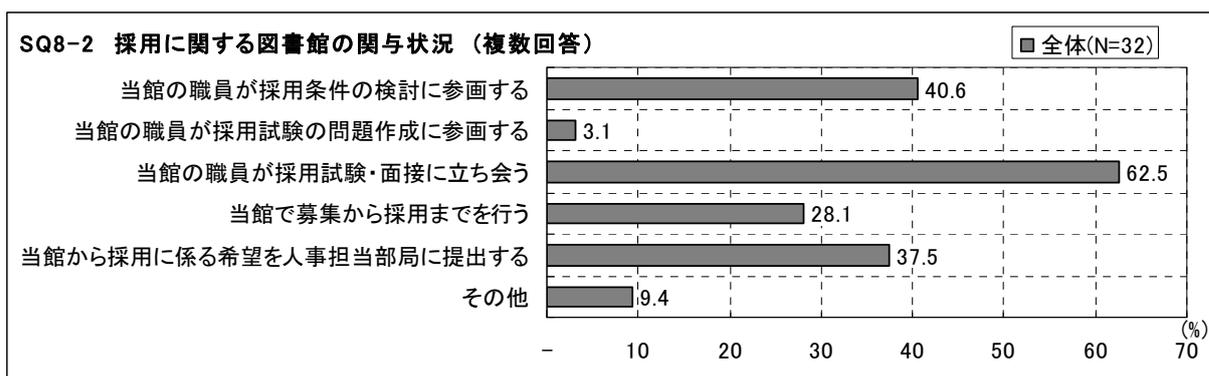
■私立・専門別

- ❖ 司書(補)有資格者の採用にあたっての図書館としての関与について、私立・専門別にみると、私立図書館は3館すべてが司書(補)有資格者の採用に図書館職員が関与するとしているのに対して、専門図書館では、2割程度が「特に採用に関与していない」としている。



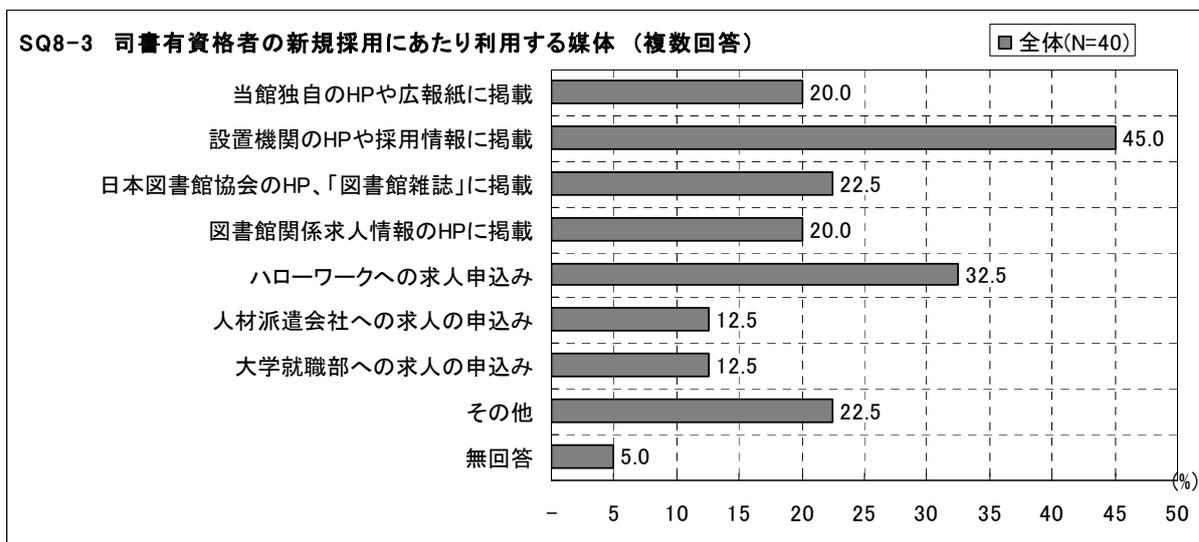
iv) 採用に際する図書館の関与状況

- ❖ 司書(補)有資格者の採用にあたり図書館として関与しているという私立・専門図書館(32館)について、どのように関与しているかをみると、「当館の職員が採用試験・面接に立ち会う」が62.5%と最も多くから挙げられている。
- ❖ また、「当館の職員が採用条件の検討に参画する」(40.6%)及び「当館から採用に係る希望を人事担当部局に提出する」(37.5%)も、4割前後と比較的高い割合となっている。



v) 司書(補)有資格者の新規採用にあたり利用する媒体

- ❖ 司書(補)有資格者の新規採用を行っている私立・専門図書館(40館)において、どのような媒体を通じて司書(補)有資格者の新規採用を行っているかをみると、「設置機関のホームページや採用情報に掲載」(45.0%)や「ハローワークへの求人の申込み」(32.5%)が比較的多く用いられている。



③ 司書(補)有資格者の新規採用数

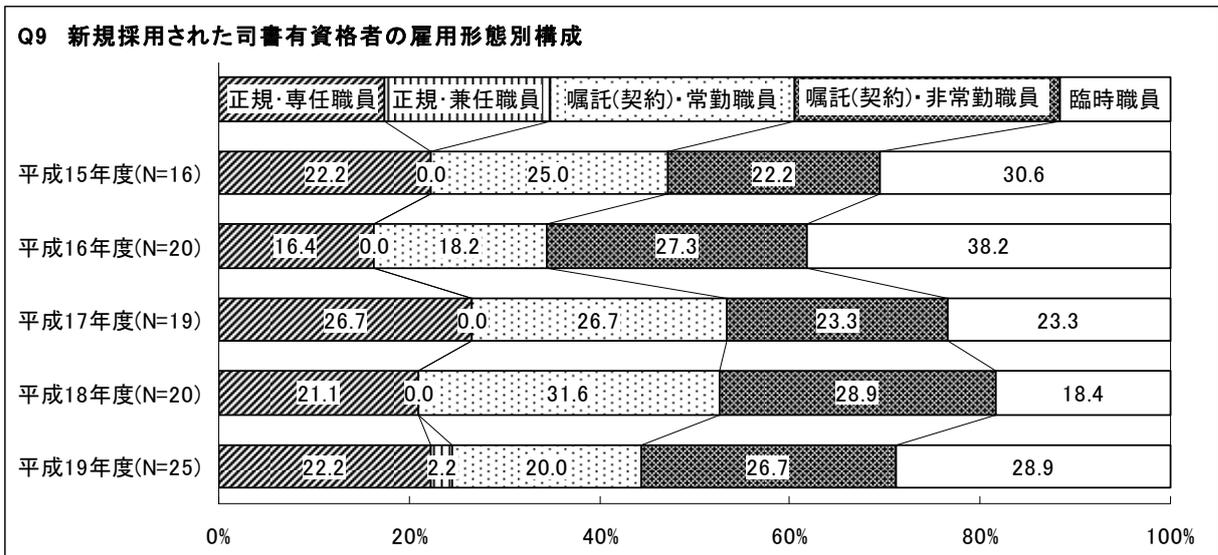
i) 司書(補)有資格者の新規採用数の経年変化

- ❖ 平成 15 年度から平成 19 年度までに新規採用した司書(補)有資格者の人数に回答があった私立・専門図書館は年々増加しており、平成 15 年度の 10.4%から平成 19 年度には 16.2%となっている。
- ❖ これらの図書館における平成 15 年度から平成 19 年度までの司書(補)有資格者の新規採用数をみると、1館あたり平均約2人前後で推移している。

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
A 全回答館数	154館	154館	154館	154館	154館
B 司書(補)有資格者の新規採用に回答があった図書館 (Aに対する割合 (B÷A))	16館 (10.4%)	20館 (13.0%)	19館 (12.3%)	20館 (13.0%)	25館 (16.2%)
C Bの図書館で新規採用された司書(補)有資格者数の合計 (1館あたりの平均新規採用者数 (C÷B))	36人 (2.3人)	55人 (2.8人)	30人 (1.6人)	38人 (1.9人)	45人 (1.8人)

ii) 新規採用された司書(補)有資格者の雇用形態別構成比

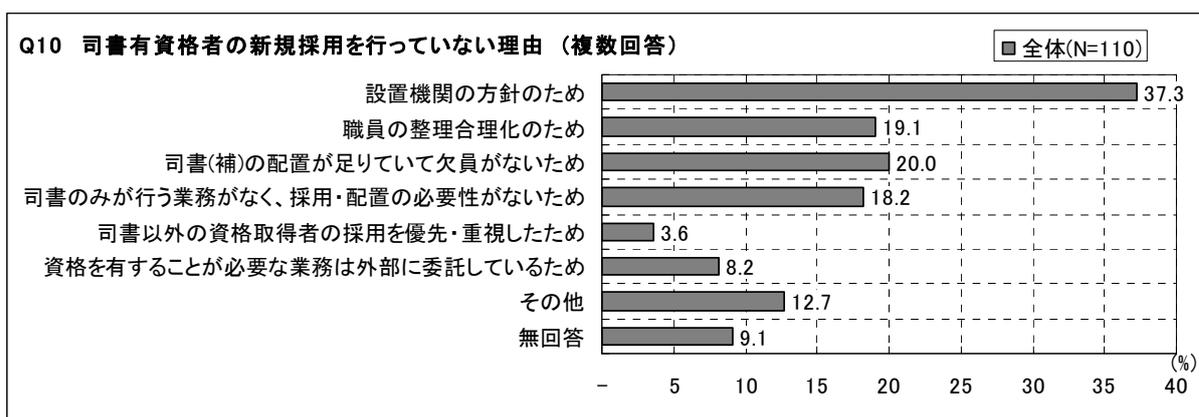
- ❖ 平成 15 年度から平成 19 年度までの間に新規採用された司書(補)有資格者の雇用形態別構成比をみると、年度間でばらつきがみられるが、「正規職員」の割合は 20~25%程度であり、「嘱託(契約)職員」及び「臨時職員」の割合はそれぞれ3割前後となっている。
- ❖ また、「1館あたりの平均新規採用者数」が 2.8 人と多かった平成 16 年度は、「臨時職員」の割合が 38.2%と他年度よりも高くなっている。



④ 司書有資格者の新規採用を行っていない理由

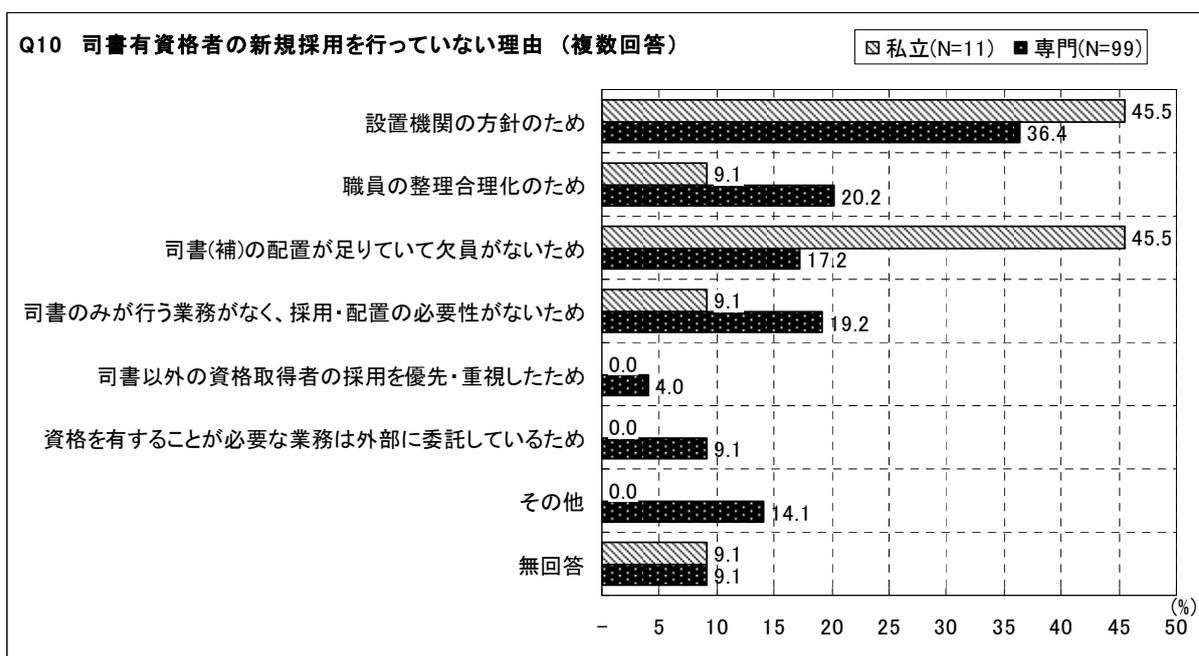
■全体

- ❖ 現在、司書(補)有資格者の新規採用を行っていない(中止している)私立・専門図書館(110 館)において、その理由をきいたところ、「設置機関の方針(当該年の新規採用は行わない)のため」が最も多く、37.3%となっている。



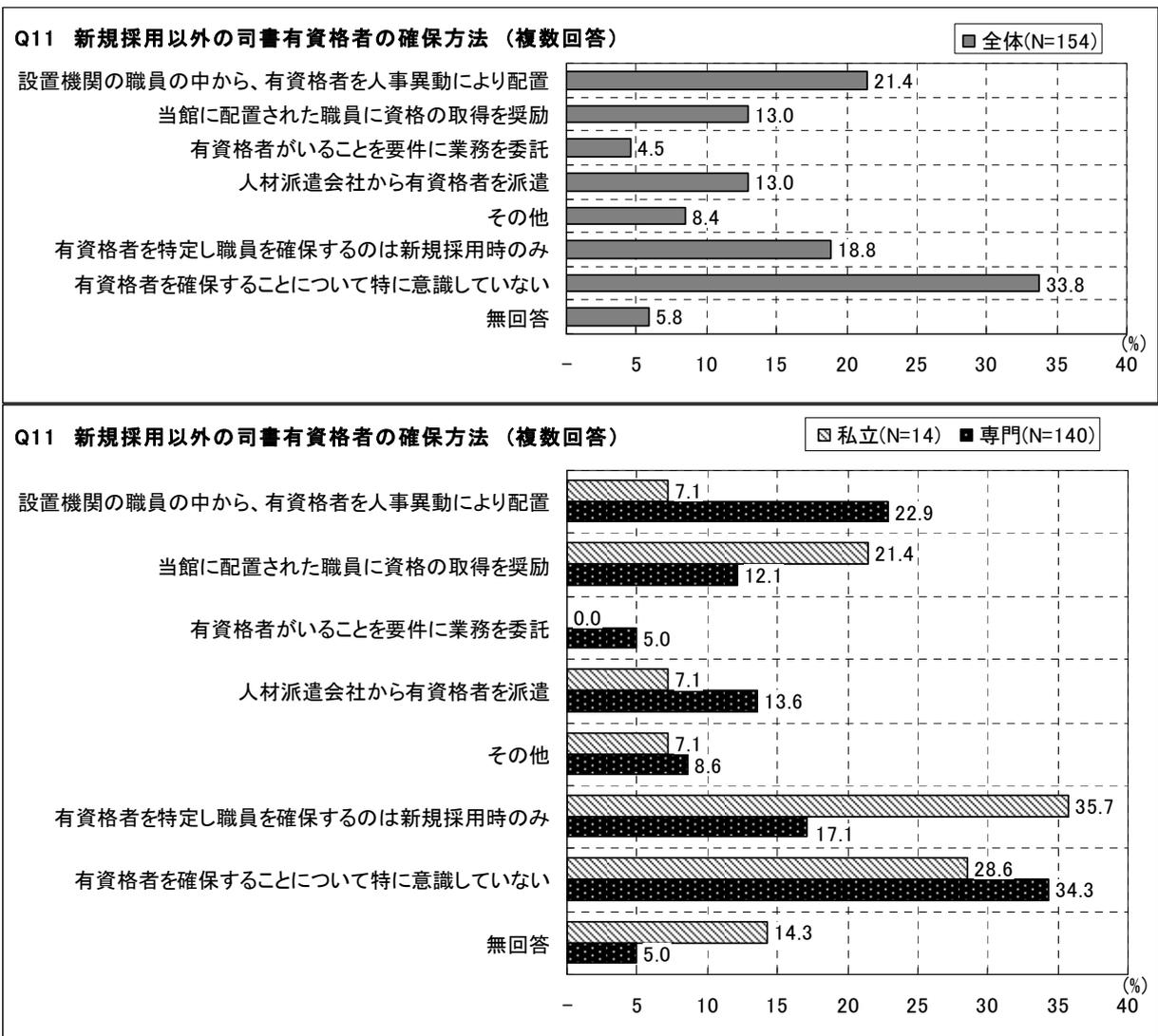
■私立・専門別

- ❖ 司書(補)有資格者の新規採用を行っていない理由について、私立・専門別にみると、私立図書館では「設置機関の方針(当該年の新規採用は行わない)のため」、あるいは「司書(補)の配置が足りていて欠員がないため」がそれぞれ 45.5%と、最も高い割合となっている。
- ❖ 一方、専門図書館では、「設置機関の方針(当該年の新規採用は行わない)のため」が 36.4%と最も高いほか、「職員の整理合理化のため」(20.2%)や「司書(補)のみが行う業務がなく、司書(補)を採用・配置する必要性がないため」(19.2%)なども比較的多くから挙げられている。



⑤ 新規採用以外の司書有資格者の確保方法〔全体及び私立・専門別〕

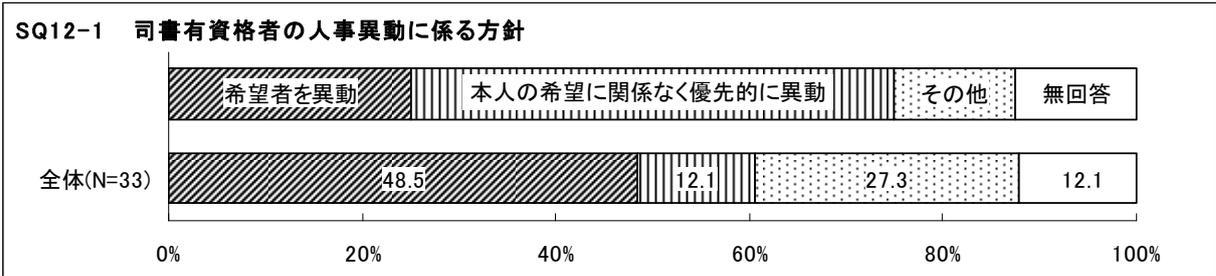
- ❖ 私立・専門図書館において、職員として司書(補)有資格者を確保する際、新規採用以外にどのような方法がとられているかをみると、「(司書(補))有資格者を確保することについて特に意識していない」図書館が33.8%と最も多いほか、「(司書(補))有資格者を特定し職員を確保しているのは新規採用時のみ」(18.8%)の図書館も全体の2割程度となっている。何らかの方法で司書(補)有資格者の確保を図っている例としては、「設置機関の職員の中から、(司書(補))有資格者を人事異動により配置」が21.4%と比較的高い割合となっている。
- ❖ これについて私立・専門別にみると、私立図書館では、「(司書(補))有資格者を特定し職員を確保するのは新規採用時のみ」が35.7%と最も多いほか、「(司書(補))有資格者を確保することについて特に意識していない」図書館も28.6%と多くなっている。また、新規採用以外の方法としては、「当館に配置された職員に資格の取得を奨励」が21.4%と、比較的高い割合となっている。
- ❖ これに対して、専門図書館では、「(司書(補))有資格者を確保することについて特に意識していない」が最も多く、34.3%となっている。新規採用以外の方法で確保されている例としては、「設置機関の職員の中から、(司書(補))有資格者を人事異動により配置」が22.9%と比較的高くなっている。



⑥ 人事異動により司書資格を有する職員を図書館配属とする際の方針等

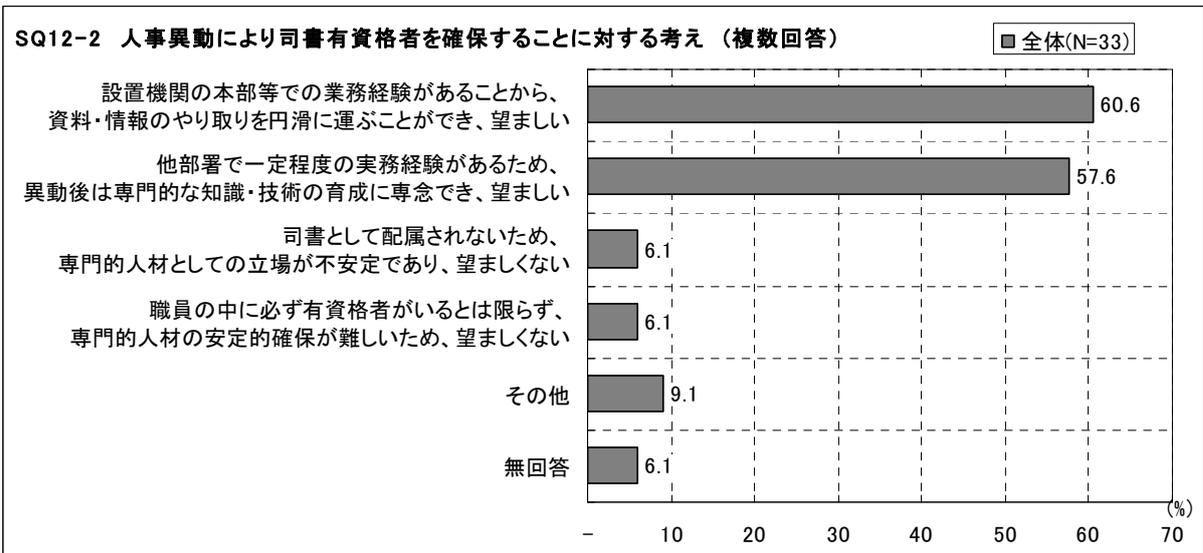
i) 司書(補)有資格者の人事異動に係る方針

- ❖ 司書(補)資格を有する職員を人事異動により図書館に配属している私立・専門図書館(33館)について、人事異動の際の方針をきいたところ、「(司書(補)資格を有する職員のうち)希望者がいれば異動」が48.5%と最も多く、「本人の希望に関係なく(職員の中に司書(補)有資格者がいれば)優先的に異動」は12.1%となっている。



ii) 人事異動により司書(補)有資格者を確保することに対する考え

- ❖ 司書(補)資格を有する職員を人事異動により図書館に配属することについて、どのような考えを持っているかきいたところ、「設置機関の本部等での業務経験があることから、機関内での資料・情報のやり取りをスムーズに運ぶことができるため望ましい」が60.6%、「他部署で一定程度の実務経験があるため、異動後は専門的な知識・技術の育成に専念でき、望ましい」が57.6%と、肯定的な考え方が多くから挙げられている。



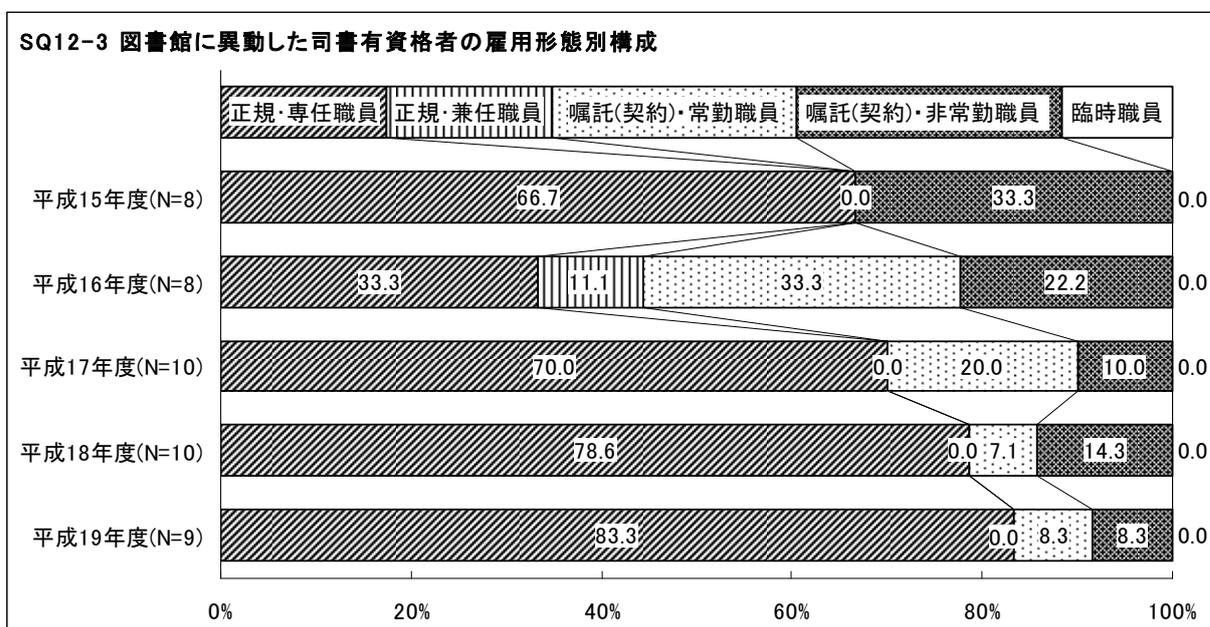
iii) 司書(補)有資格者の異動数の推移

- ❖ 平成15年度から平成19年度の間実際に司書(補)有資格者の異動がみられた私立・専門図書館はほとんどなく、9館(6%)前後である。
- ❖ これらの図書館において、平成15年度から平成19年度の間実際に図書館に異動となった司書(補)有資格者数をみると、1館あたりの平均異動者数は約1人程度である。

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
A 全回答館数	154館	154館	154館	154館	154館
B 司書(補)有資格者の異動数に回答があった図書館 (Aに対する割合 (B÷A))	8館 (5.2%)	8館 (5.2%)	10館 (6.5%)	10館 (6.5%)	9館 (5.8%)
C Bの図書館での司書(補)有資格者の異動数の合計 (1館あたりの平均異動者数 (C÷B))	9人 (1.1人)	9人 (1.1人)	10人 (1.0人)	14人 (1.4人)	12人 (1.3人)

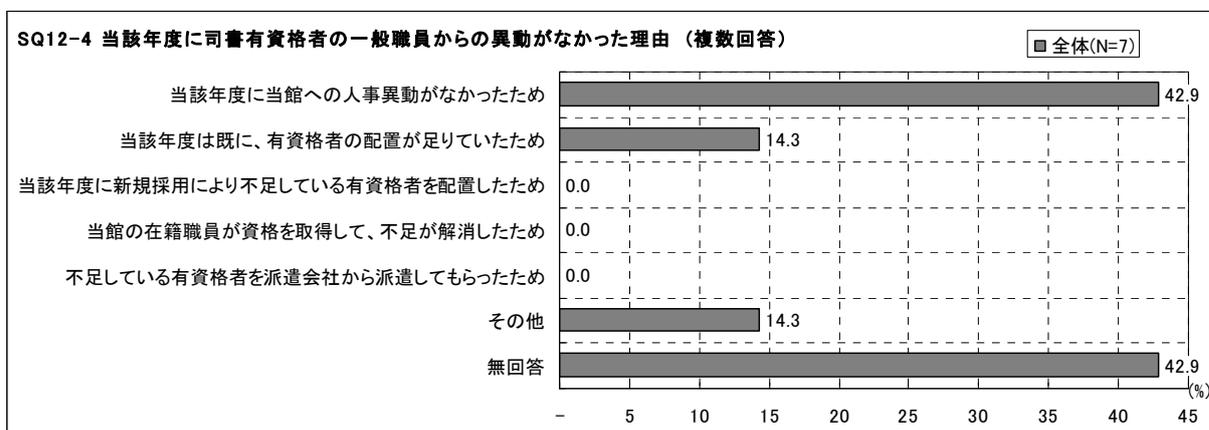
iv) 図書館に異動した司書(補)有資格者の雇用形態別構成比の推移

- ❖ 司書(補)資格を有する職員を人事異動により図書館に配置している私立・専門図書館において、平成15年度から平成19年度の間図書館に異動となった司書(補)有資格者を雇用形態別にみると、平成16年度を除き、「正規・専任職員」としての配置が大部分であり、近年その割合は高くなっており、逆に「嘱託職員(常勤+非常勤)」については、その割合は低下傾向にある。



v) 司書(補)有資格者の一般職員からの異動がなかった理由

- ❖ 平成15年度から平成19年度の中で司書(補)有資格者の異動が一人もなかった私立・専門図書館(7館)において、その理由をみると、「当該年度に当館への人事異動がなかったため」が42.9%と最も多くなっている。



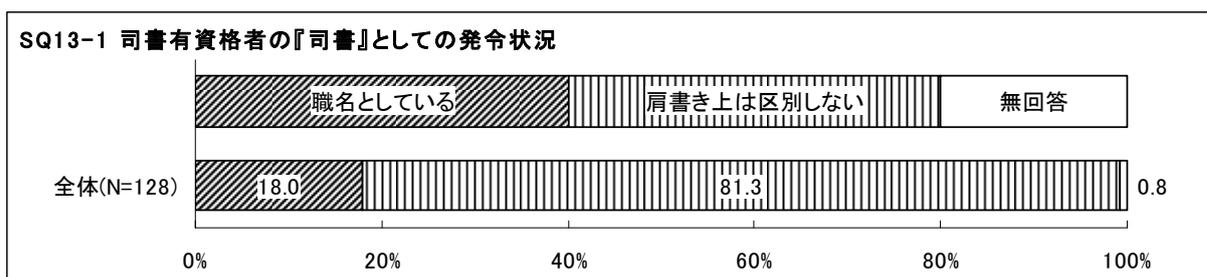
(4) 司書有資格者の配置・活用状況

① 私立・専門図書館における司書の発令状況

i) 司書(補)有資格者の『司書(補)』としての発令の有無

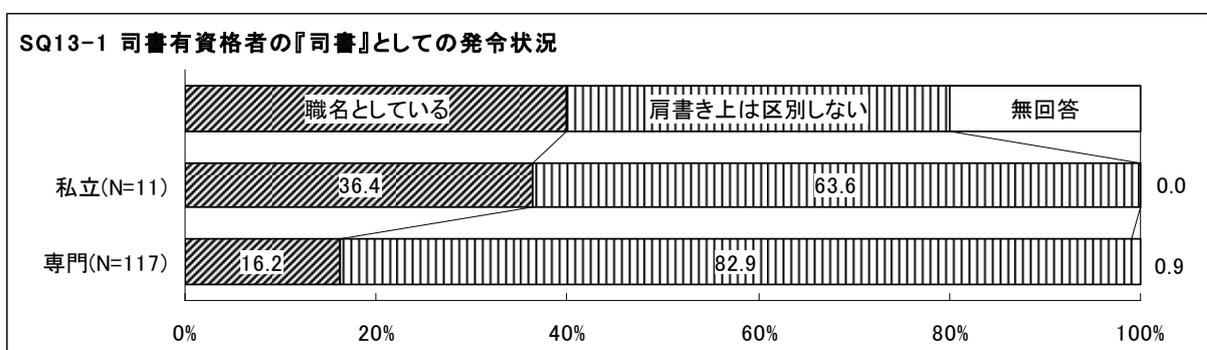
■全体

❖ 平成15年度から平成19年度の間にも一人でも司書(補)有資格者が配置されている私立・専門図書館(140館)において、司書(補)としての発令状況をみると、『司書』『司書補』等という「職名としている」図書館は18.0%であり、8割以上では「肩書き上は(特に他の一般職員と)区別しない」としている。



■私立・専門別

❖ これについて私立・専門別にみると、司書(補)有資格者を「職名としている」割合は私立図書館の方が高く(私立図書館 36.4%、専門図書館 16.2%)なっている。



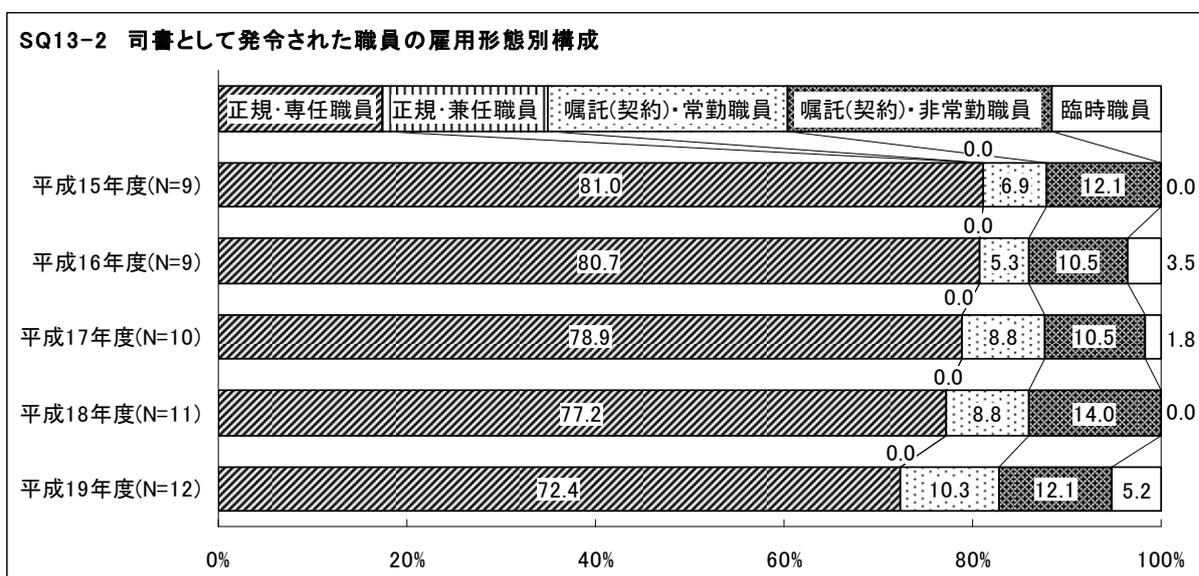
ii) 司書(補)発令者数の経年変化

- ❖ 平成15年度から平成19年度の間、実際に司書(補)有資格者の発令がみられた私立・専門図書館は、年度により差があるが、多くても平成19年度の6.5%(10館)である。
- ❖ 平成15年度から平成19年度の間、私立・専門図書館において司書(補)として発令されている人数をみると、1館あたり平均5~6人となっており、年々減少する傾向がみられる。

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
A 全回答館数	154館	154館	154館	154館	154館
B 司書の発令者数に回答があった図書館 (Aに対する割合 (B÷A))	9館 (5.8%)	0館 (0.0%)	9館 (5.8%)	0館 (0.0%)	10館 (6.5%)
C Bの図書館で発令されている司書の合計 (1館あたりの平均司書発令者数 (C÷B))	58人 (6.4人)	57人 (6.3人)	57人 (5.7人)	57人 (5.2人)	58人 (4.8人)

iii) 司書(補)発令者の雇用形態別構成比の推移

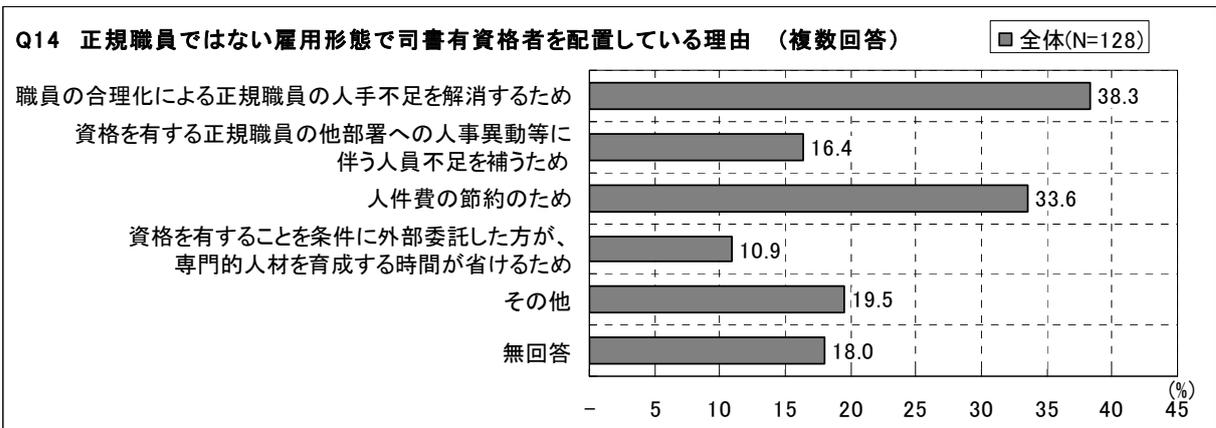
- ❖ 平成15年度から平成19年度の間、私立・専門図書館において司書(補)として発令された職員について、雇用形態別構成比の推移をみると、各年度とも「正規・専任職員」が7~8割と最も高い割合となっているが、その構成比は徐々に低下しており、代わって「嘱託(契約)・常勤職員」の割合が高くなる傾向がみられる。



② 正規職員ではない雇用形態で司書(補)有資格者を配置している理由

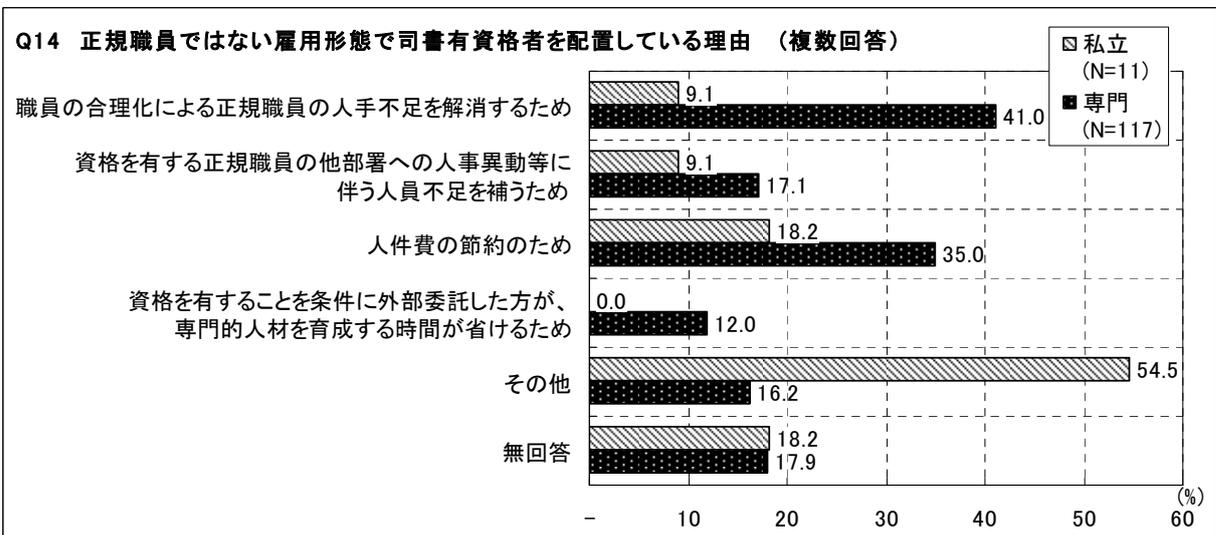
■全体

- ❖ 平成 15 年度から平成 19 年度の間に、一人でも司書(補)有資格者が配置されている私立・専門図書館(140 館)のうち、正規職員ではない雇用形態(嘱託(契約)職員、臨時職員及び委託・派遣職員)で司書(補)有資格者を配置しているのは 128 館であった。
- ❖ これらの図書館において、非正規での司書(補)有資格者の配置理由をみると、「職員の合理化による正規職員の人手不足を解消するため」が 38.3%と最も高い割合となっているほか、「人件費の節約のため」も3割を超えている。



■私立・専門別

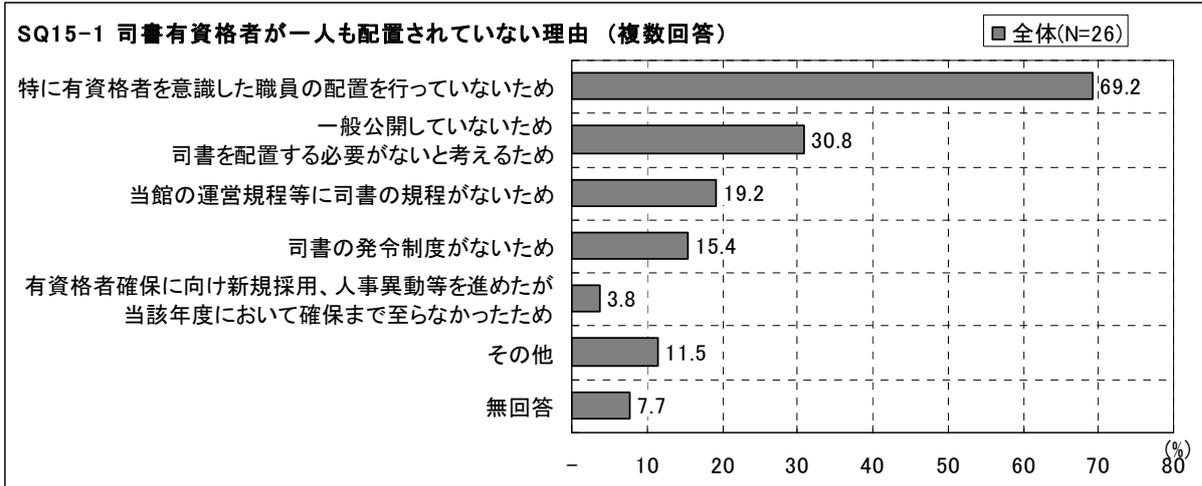
- ❖ 正規職員ではない雇用形態(嘱託(契約)職員、臨時職員及び委託・派遣職員)で司書(補)有資格者を配置している理由について、私立・専門別にみると、私立図書館については、各館から様々な理由が挙げられており、共通する傾向はみられない。
- ❖ 一方専門図書館については、「職員の合理化による正規職員の人手不足を解消するため」が 41.0%と最も高い割合となっており、「人件費の節約のため」も 35.0%と比較的多くから挙げられている。



③ 司書(補)有資格者が一人も配置されていない理由等

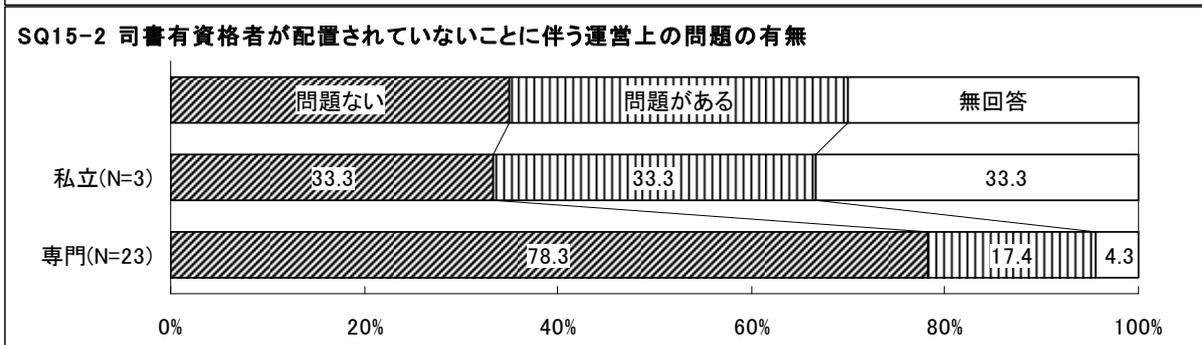
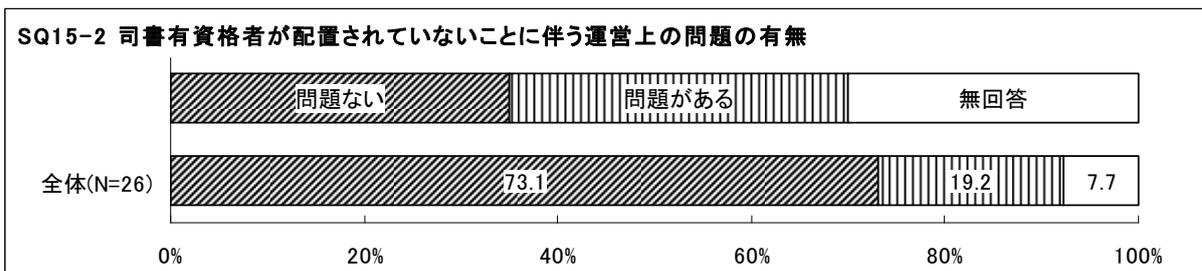
i) 司書(補)有資格者が一人も配置されていない理由

- ❖ 平成 15 年度から平成 19 年度の間で、司書(補)有資格者が一人も配置されていない私立・専門図書館は 26 館(16.9%)である。これらの図書館において、その理由をみると「特に(司書(補))有資格者を意識した職員の配置を行っていないため」が 69.2%と突出している。



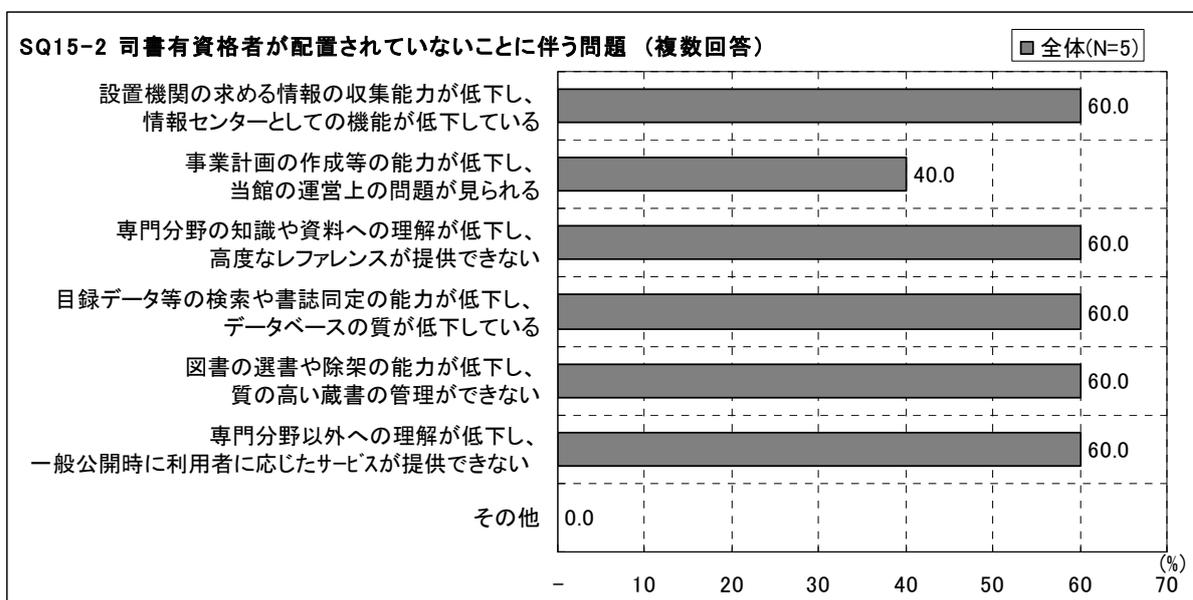
ii) 司書(補)有資格者が一人も配置されていないことに伴う問題の有無〔全体及び私立・専門別〕

- ❖ 司書(補)有資格者が一人も配置されていないことが運営上の問題となっているかをみると、「司書(補)が配置されていなくても特に問題はない」とする図書館が 73.1%と体勢を占め、司書(補)が配置されていないことが問題となっている図書館は全体の2割程度となっている。
- ❖ これについて、私立・専門別にみると、専門図書館の大部分は「特に問題はない」としている。



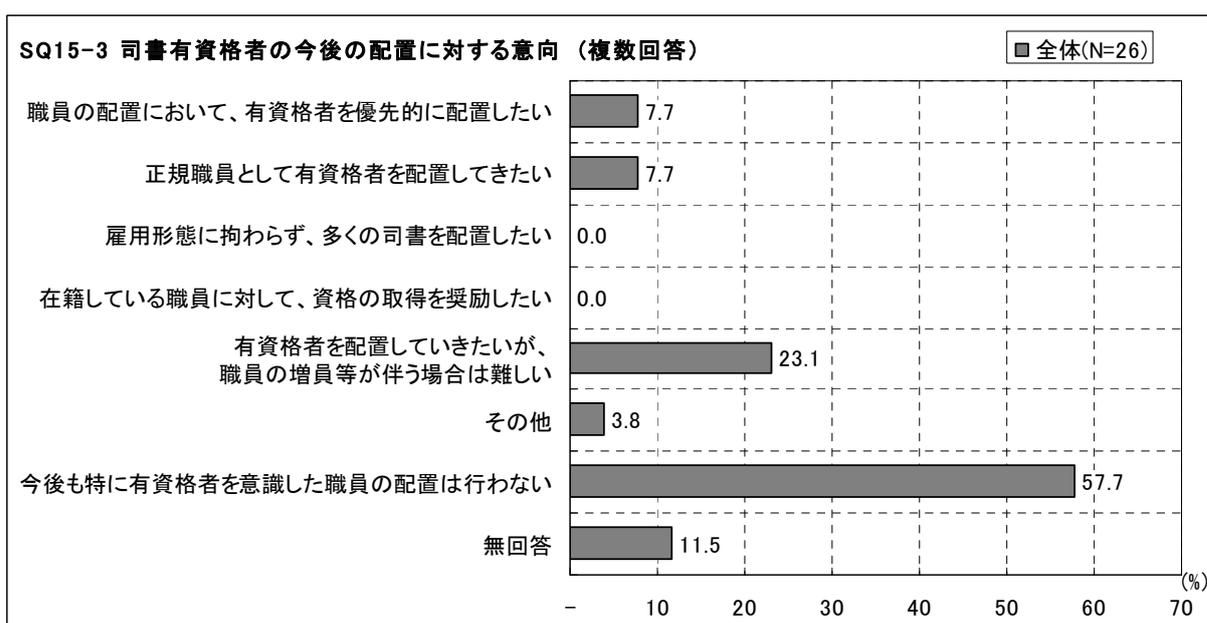
iii) 司書(補)有資格者が一人も配置されていないことに伴う問題の具体的内容

- ❖ 司書(補)有資格者が一人も配置されていないことにより生じている運営上の問題としては、各館から様々な内容が挙げられており、特徴的な傾向はみられない。



iv) 司書(補)有資格者の今後の配置に対する意向

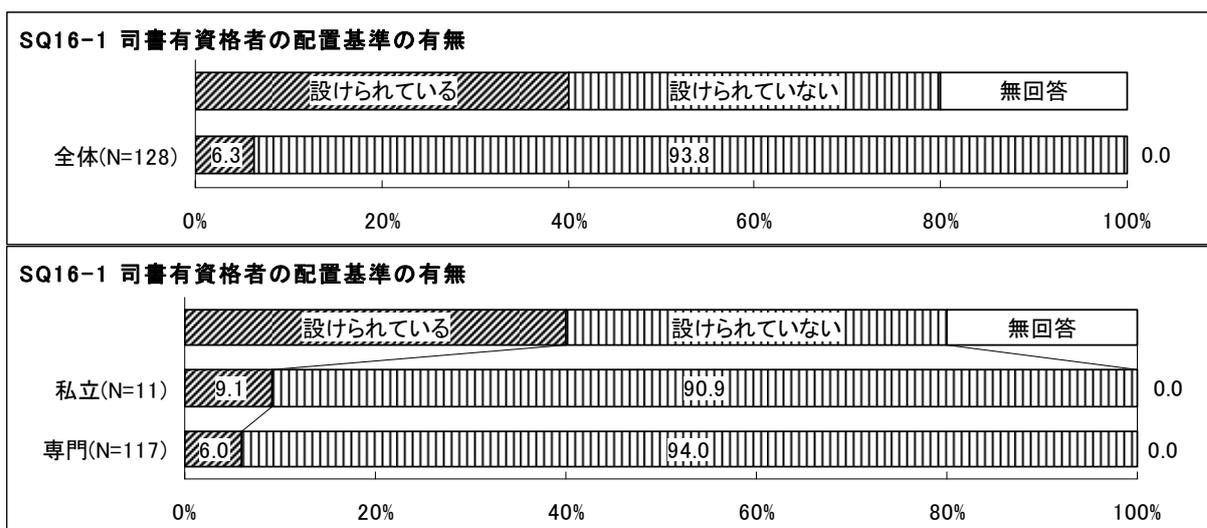
- ❖ 平成 15 年度から平成 19 年度の間で、司書(補)有資格者が一人も配置されていない私立・専門図書館について、今後司書(補)有資格者を配置する意向を聞いたところ、「今後も特に司書(補)有資格者を意識した職員の配置は行わない」が 57.7%と最も高い割合となり、司書(補)の配置に消極的な図書館が多い。また、「(司書(補))有資格者を配置していきたいが、職員の増員等が伴う場合は難しい」という声も 23.1%と、比較的高い割合となっている。



④ 司書有資格者の配置基準や従事している業務等〔全体及び私立・専門別〕

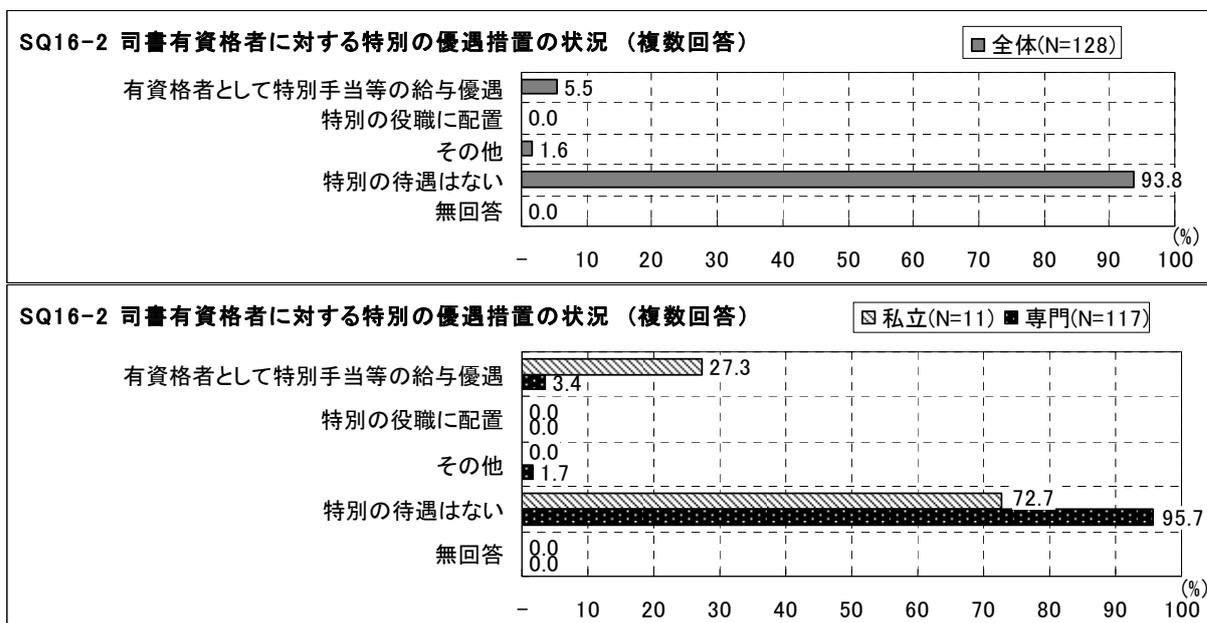
i) 司書(補)有資格者の配置基準の有無

- ❖ 平成 15 年度から平成 19 年度の間で、司書(補)有資格者が一人でも配置されている私立・専門図書館は 128 館 (83.1%) である。これらの図書館において、職員として配置する司書(補)有資格者の割合や司書(補)数の数値基準等の有無をみると、数値基準等が「設けられている」図書館は 6.3%と少なく、数値基準等が「設けられていない」図書館が 93.8%と、大部分を占めている。
- ❖ これについて、私立・専門別にみると、数値基準等が「設けられている」図書館の割合は私立図書館の方がやや高いが、いずれも1割に満たない。



ii) 司書(補)有資格者に対する特別優遇措置の状況〔全体及び私立・専門別〕

- ❖ 配置されている司書(補)有資格者に対して何らかの特別の優遇措置があるかをみると、全体としては「特別の優遇措置はない」が9割以上であり、専門図書館で特に 95.7%と高くなっている。一方私立図書館では、「特別の優遇措置はない」としている図書館が 72.7%と高い割合となっているが、「司書(補)有資格者として特別手当等の給与優遇」をしている図書館も 27.3%みられる。



iii) 各職員区分別の従事業務内容

- ❖ 平成 15 年度から平成 19 年度の間で、司書(補)有資格者が一人でも配置されている私立・専門図書館において、図書館のそれぞれの業務について、誰が携わっているかをみると、館長として携わる業務は運営管理に関する業務の割合が高くなっており、「当館の運営計画の立案」が最も多く 95.0%となっている。また、「資料の収集方針・計画の立案」が 73.3%と、高い割合となっている。
- ❖ 司書として携わる業務は、どの業務の割合も高く、幅広く業務に携わっている。なかでも、資料管理及び利用サービスに関する業務は、大部分が 80%以上となっている。
- ❖ その他の職員として携わる業務は、「書架整理」が最も多く、75.2%となっている。また、「蔵書点検」、「返却図書の配架作業」、「資料の貸出処理」、及び「資料の返却処理」が7割以上と、高く、資料管理及び利用サービスに関する業務が多くなっている。

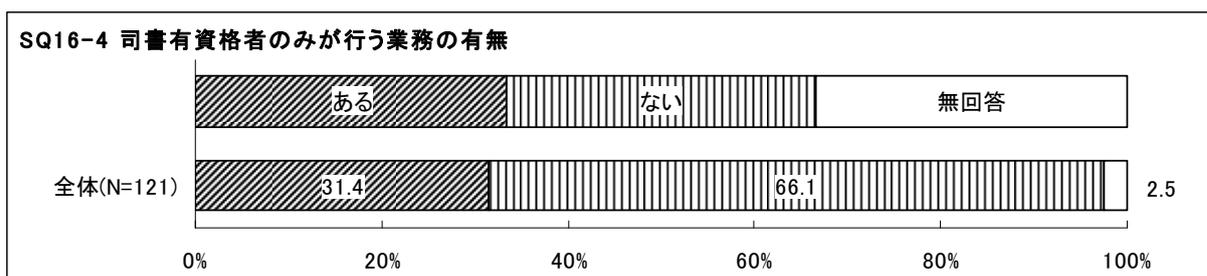
(単位: %)

携わる業務		館長・室長 全体(N=101)	司書 全体(N=121)	司書補 全体(N=9)	その他 全体(N=105)
経営 管理	当館の運営計画の立案	95.0	61.2	22.2	42.9
	設置機関への対応	58.4	67.8	33.3	43.8
	当館の統計の作成・分析	39.6	81.8	44.4	53.3
	当館の広報資料の作成	37.6	76.9	33.3	45.7
	要望・苦情処理への対応	57.4	73.6	44.4	49.5
	職員の研修の立案・実施	48.5	57.9	22.2	31.4
資 料 管 理	資料の収集方針・計画の立案	73.3	79.3	33.3	40.0
	資料の選定	54.5	89.3	33.3	54.3
	外部情報・資料の収集	28.7	87.6	33.3	43.8
	資料の発注・契約	22.8	86.8	22.2	51.4
	寄贈資料の受入・分類	6.9	95.9	66.7	59.0
	新刊資料の分類・配架	5.9	95.9	66.7	61.0
	書架整理	6.9	92.6	100.0	75.2
	蔵書点検	8.9	93.4	88.9	73.3
	廃棄資料の選定・廃棄作業	25.7	88.4	33.3	58.1
	資料の簡易な製本と修理	2.0	81.8	77.8	58.1
	目録・書誌データの加工・修正	3.0	95.9	44.4	52.4
	返却図書の配架作業	4.0	83.5	77.8	72.4
	返却期限が過ぎている資料の督促処理	3.0	83.5	55.6	52.4
二次資料などの作成・編集	7.9	86.0	33.3	35.2	
利 用 サ ー ビ ス	利用者登録・利用案内等	10.9	89.3	88.9	62.9
	資料の貸出処理	5.0	86.0	66.7	72.4
	資料の返却処理	5.0	86.0	66.7	72.4
	外部資料・情報等の情報提供	13.9	90.9	55.6	50.5
	レファレンス・サービス	10.9	96.7	77.8	51.4
	レファラル・サービス	11.9	87.6	66.7	41.0
	複写サービス	1.0	69.4	88.9	53.3
	ホームページの企画・作成、管理	18.8	66.1	33.3	47.6
	その他	4.0	7.4	0.0	6.7

iv) 司書(補)有資格者のみが行う業務の有無

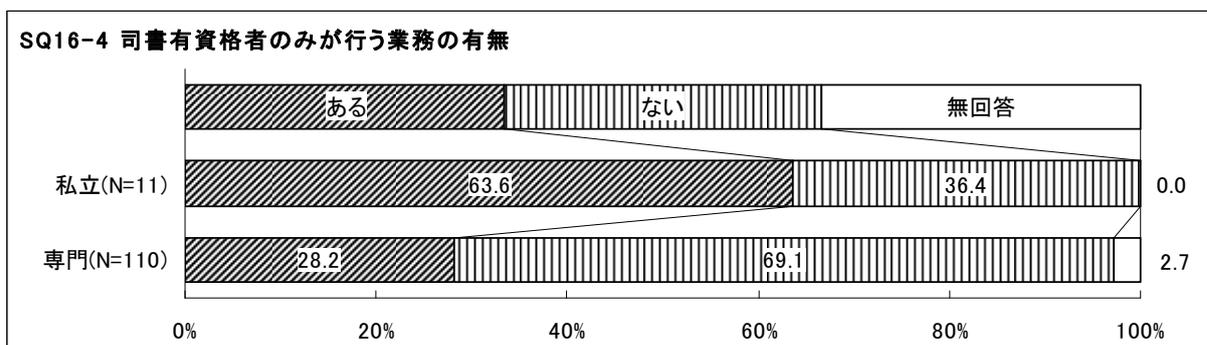
■全体

- ❖ 図書館における業務の中で「司書有資格者」又は「司書補有資格者」が携わる業務について回答があった私立・専門図書館(121館)において、それぞれの業務の中で司書(補)の資格を持っている者のみが行う業務の有無をみると、役職等に応じてではなく、司書(補)の資格を有する者のみが行う業務が「ある」とする図書館は31.4%であり、7割近くは司書(補)の資格を有する者のみが行う業務は「ない」としている。



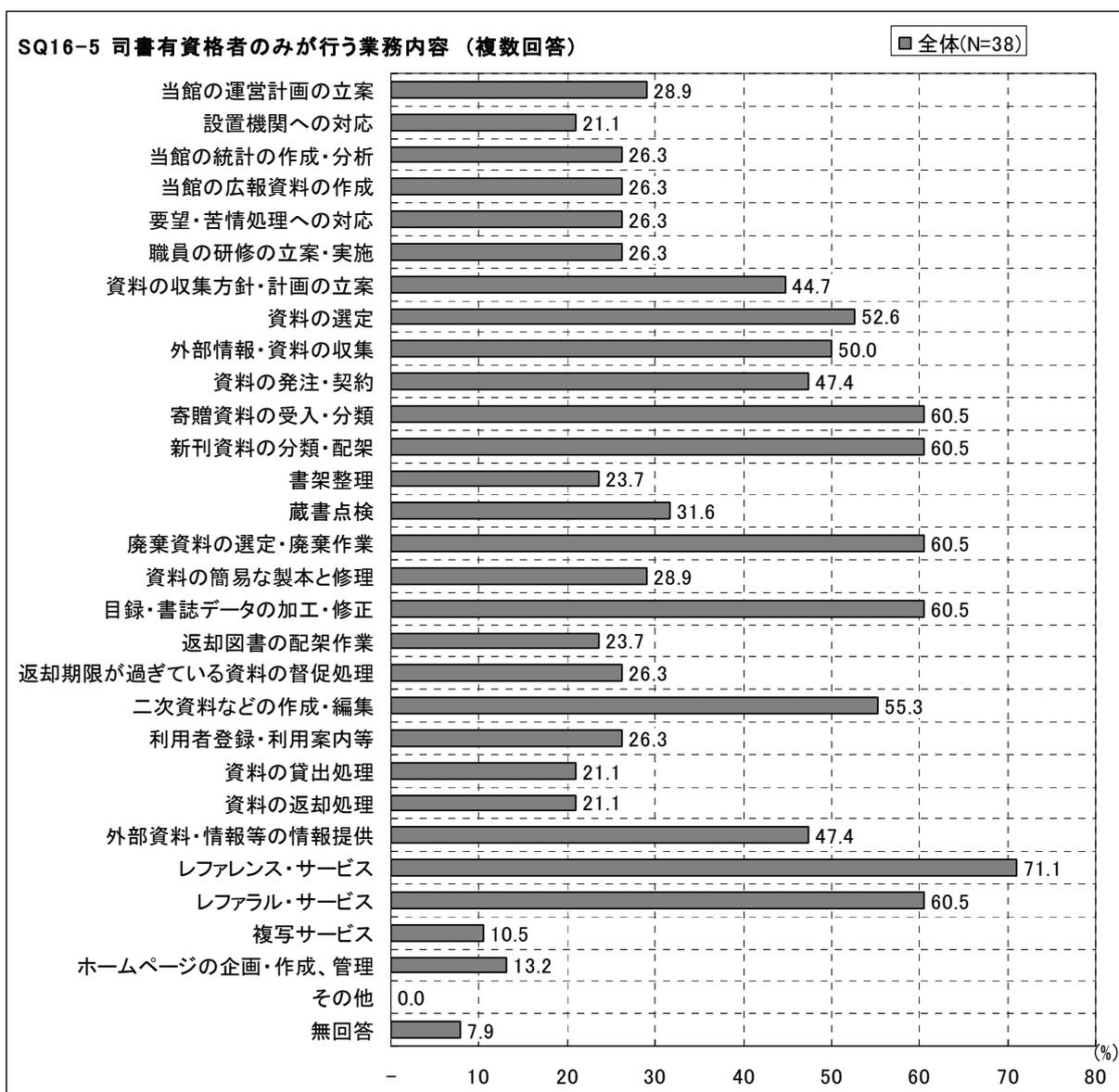
■私立・専門別

- ❖ 図書館業務の中で司書(補)の資格を持っている者のみが行う業務の有無について、私立・専門別にみると、私立図書館については、司書(補)の資格を有する者のみが行う業務が「ある」図書館が53.6%と半数を超えているが、専門図書館については「ある」は28.2%と3割弱となっており、専門図書館の7割近くは司書(補)の資格を有する者のみが行う業務は「ない」としている。



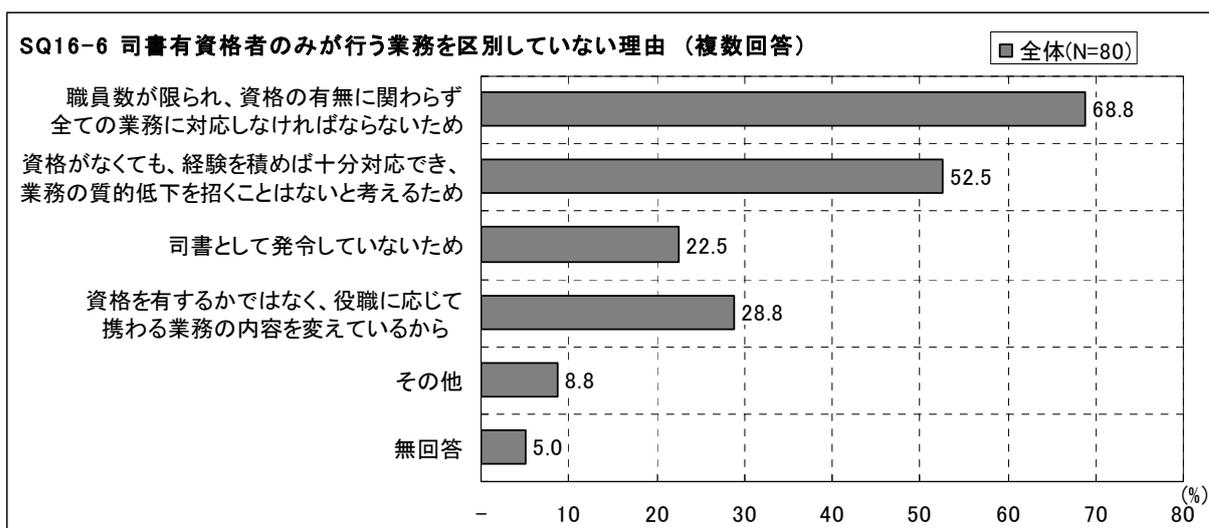
v) 司書(補)有資格者のみが行う業務内容

❖ 「司書(補)の資格を持っている者のみが行う業務がある」私立・専門図書館(38館)において、司書(補)の資格を持っている者のみが行う業務の内容をみると、「レファレンス・サービス」が最も多く、71.1%となっている。次いで、「寄贈資料の受入・分類(データ入力・装備等)」、「新刊資料の分類(データ入力・装備等)・配架」、「廃棄資料の選定・廃棄作業」、「目録・書誌データの加工・修正」、及び「レファラル・サービス(利用者への他機関の紹介等)」がそれぞれ60.5%となっている。



vi) 司書(補)有資格者のみが行う業務を区別していない理由

- ❖ 「司書(補)の資格を持っている者のみが行う業務がない」とする私立・専門図書館(80館)において、その理由をみると、「職員の人数が限られ、司書(補)資格の有無にかかわらず、職員それぞれが全ての業務に対応しなければならないため」が最も多く、68.8%となっている。
- ❖ また、「(司書(補))資格がなくても、ある程度経験を積めば十分対応でき、当館業務の質的低下を招くことはないと考えられるため」も半数を超えており、高い割合となっている。

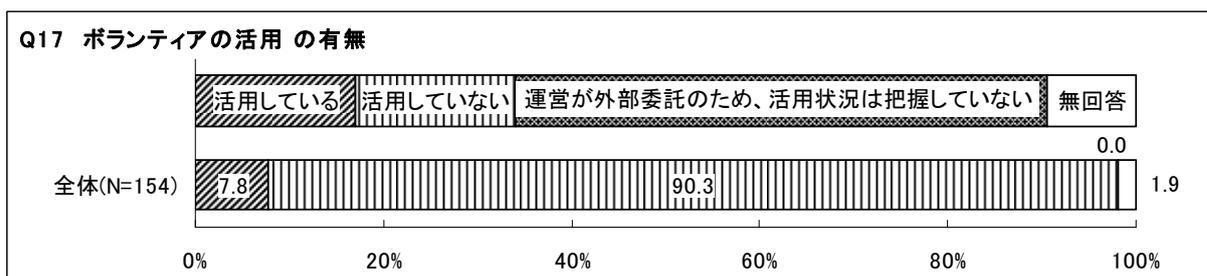


(5) ボランティアの活用状況

① ボランティアの活用の有無

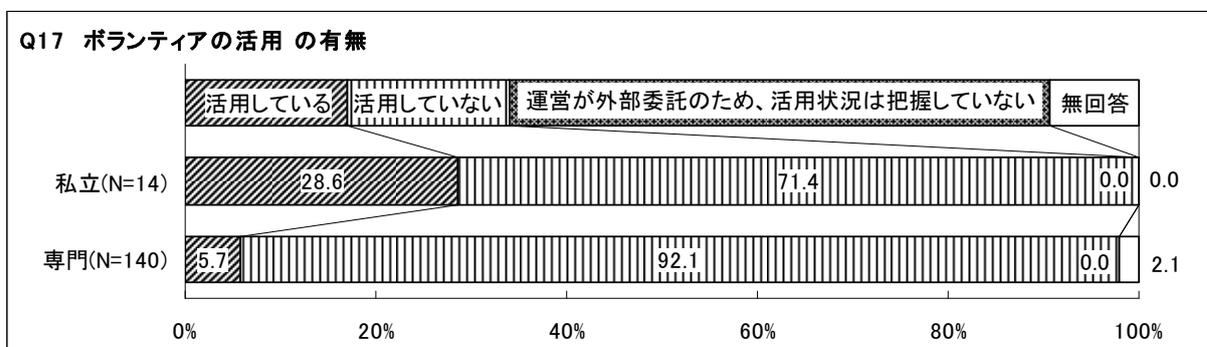
■全体

❖ 私立・専門図書館におけるボランティアの活用状況をみると、ボランティアを「活用している」図書館は7.8%と少なく、ボランティアを「特に活用していない」図書館が90.3%と、大半を占めている。また、「運営が外部委託のため、(ボランティアの)活用状況は把握していない」という図書館は1.9%となっている。



■私立・専門別

❖ ボランティアの活用状況について、私立・専門別にみると、私立図書館はボランティアを「活用している」図書館が約3割であるのに対して、専門図書館は5.7%と少なくなっている。

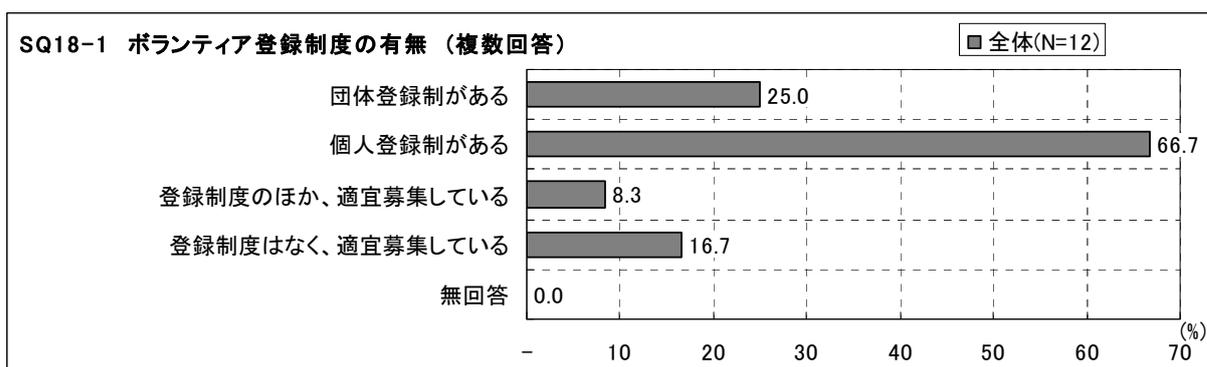


② ボランティアの登録制度の導入状況

i) ボランティア登録制度の有無

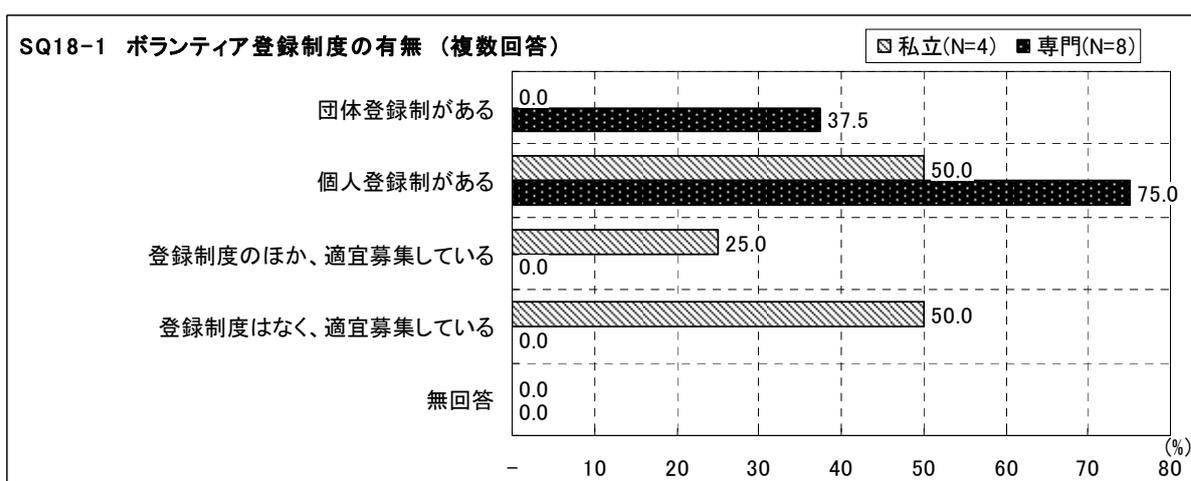
■全体

- ❖ ボランティアを活用している私立・専門図書館(12館)において、ボランティアの登録制度の有無について、みると、「登録制度はなく、(事業等の都度)適宜募集している」図書館が16.7%と、登録制度のある図書館が8割ほどとなっており、導入されている登録制度としては、「団体登録制度」(25.0%)よりも、「個人登録制度」の方が多く、66.7%となっている。



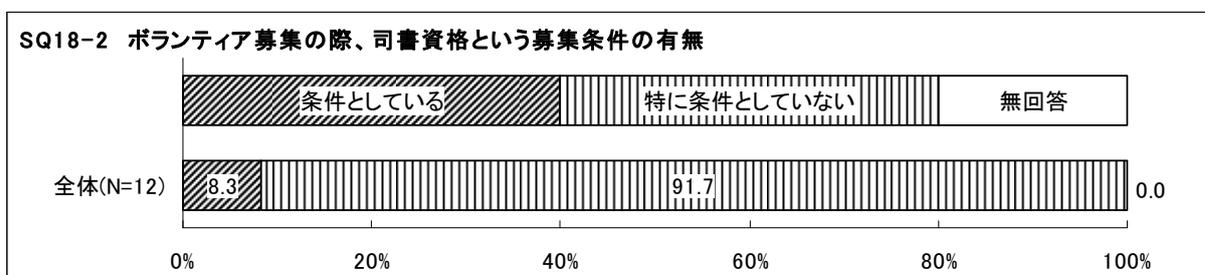
■私立・専門別

- ❖ ボランティアの登録制度について、私立・専門別にみると、私立図書館は、「登録制度はなく、(事業等の都度)適宜募集している」図書館、及び「個人登録制度がある」図書館がそれぞれ半数となっている。専門図書館については、ボランティアの登録制度を導入している図書館のみとなっており、「団体登録制度」が37.5%、「個人登録制度」が75.0%となっている。



ii) 司書(補)資格を有するボランティアの募集状況

- ❖ ボランティアを活用している私立・専門図書館(12館)において、ボランティアを募集する際、司書(補)資格を有することを募集条件としているかをみると、司書(補)資格を有することを「(募集)条件としている」図書館は8.3%と少なく、大部分の図書館が司書(補)資格を有することは「特に(募集)条件とはしていない」(91.7%)としている。



iii) 団体登録制によるボランティア数の推移

- ❖ 平成15年度から平成19年度の間、団体登録制によるボランティアの登録・活動があった私立・専門図書館は1館のみであり、登録団体数も1団体、平均登録者(ボランティア)数は30人前後となっている。また、ボランティアの中に司書(補)有資格者はいなかった。

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
A 全回答館数	154館	154館	154館	154館	154館
B 団体登録数に回答のあった図書館 (Aに対する割合 (B÷A))	1館 (0.6%)	1館 (0.6%)	1館 (0.6%)	1館 (0.6%)	1館 (0.6%)
C Bの図書館における登録団体の合計 (1館あたり平均登録団体数 (C÷B))	1団体 (1.0団体)	1団体 (1.0団体)	1団体 (1.0団体)	1団体 (1.0団体)	1団体 (1.0団体)
D Bの図書館における登録者数の合計 (1館あたり平均登録者数 (D÷B))	30人 (30.0人)	30人 (30.0人)	29人 (29.0人)	30人 (30.0人)	30人 (30.0人)
E Dのうち司書(補)有資格者数の合計 (Dのうち司書(補)有資格者の割合 (E÷D))	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)

iv) 個人登録制によるボランティア数の推移

- ❖ 平成15年度から平成19年度の間、個人登録制によるボランティアの登録・活動があった私立・専門図書館は5～7館であり、具体的な活用状況をみると、「1館あたりの平均登録者(ボランティア)数」は約20～26人となっている。またこれらのうち、司書(補)有資格者は1割に満たない。

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
A 全回答館数	154館	154館	154館	154館	154館
B 個人登録数に回答のあった図書館 (Aに対する割合 (B÷A))	5館 (3.2%)	5館 (3.2%)	7館 (4.5%)	7館 (4.5%)	7館 (4.5%)
C Bの図書館における登録者数の合計 (1館あたり平均登録者数 (C÷B))	119人 (23.8人)	115人 (23.0人)	136人 (19.4人)	134人 (19.1人)	180人 (25.7人)
D Cのうち司書(補)有資格者数の合計 (Cのうち司書(補)有資格者の割合 (D÷C))	10人 (8.4%)	7人 (6.1%)	9人 (6.6%)	8人 (6.0%)	7人 (3.9%)

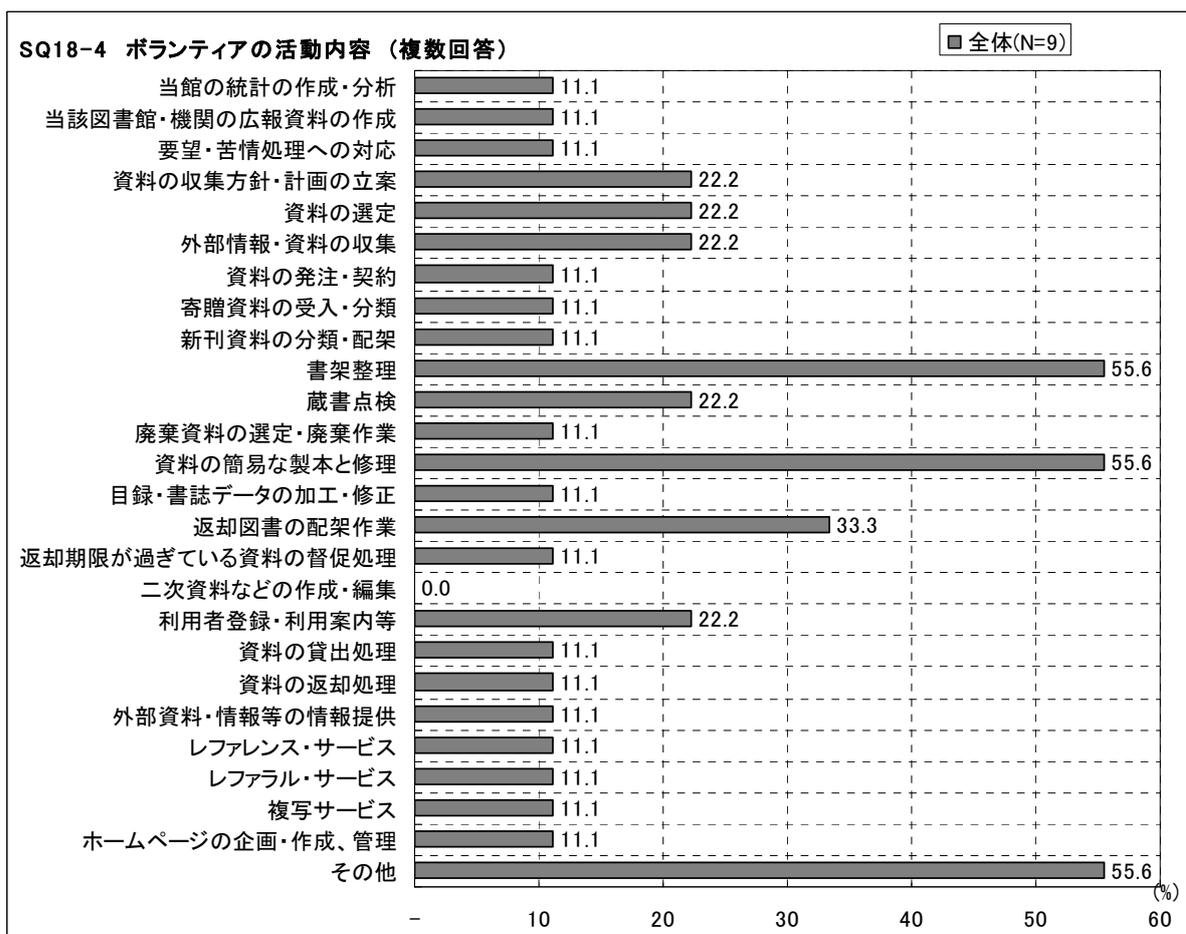
v) ボランティアの年間延べ参加者数の推移

- ❖ 平成 15 年度から平成 19 年度の間には団体登録制・個人登録制によらない図書館ボランティアの活動が実際にみられた私立・専門図書館は3館のみであり、1館あたりの平均ボランティア参加者数は約 21～30 人となっている。また、これらのうち、司書(補)有資格者の割合は1～2%台とかなり少ない。

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
A 全回答館数	154館	154館	154館	154館	154館
B ボランティア参加者数に回答のあった図書館 (Aに対する割合 (B÷A))	3館 (1.9%)	3館 (1.9%)	3館 (1.9%)	3館 (1.9%)	3館 (1.9%)
C Bの図書館における延べボランティア参加者数の合計 (1館あたり平均ボランティア参加者数 (C÷B))	72人 (24.0人)	64人 (21.3人)	71人 (23.7人)	68人 (22.7人)	91人 (30.3人)
D Cのうち司書(補)有資格者数の合計 (Cのうち司書(補)有資格者の割合 (D÷C))	1人 (1.4%)	1人 (1.6%)	1人 (1.4%)	2人 (2.9%)	2人 (2.2%)

vi) 図書館ボランティアの活動内容

- ❖ 図書館で活動しているボランティアの活動内容をみると、「書架整理」、及び「資料の簡易な製本と修理」がそれぞれ 55.6%と、最も多くなっている。



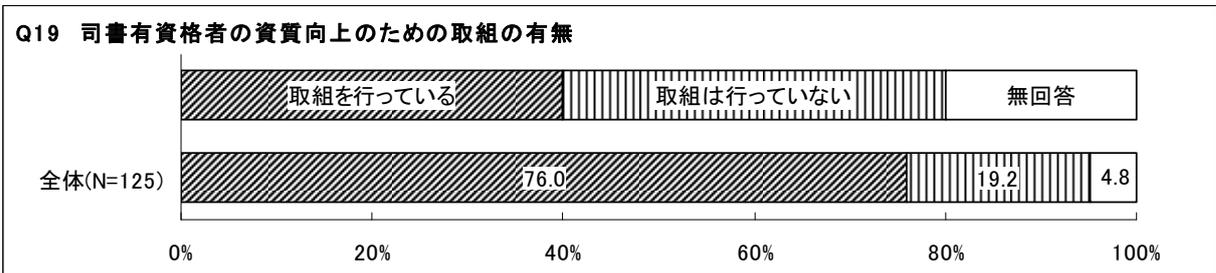
(6) 司書有資格者の資質向上方策

① 司書(補)有資格者の資質向上のための取組

i) 司書(補)有資格者の資質向上を図る取組の有無

■全体

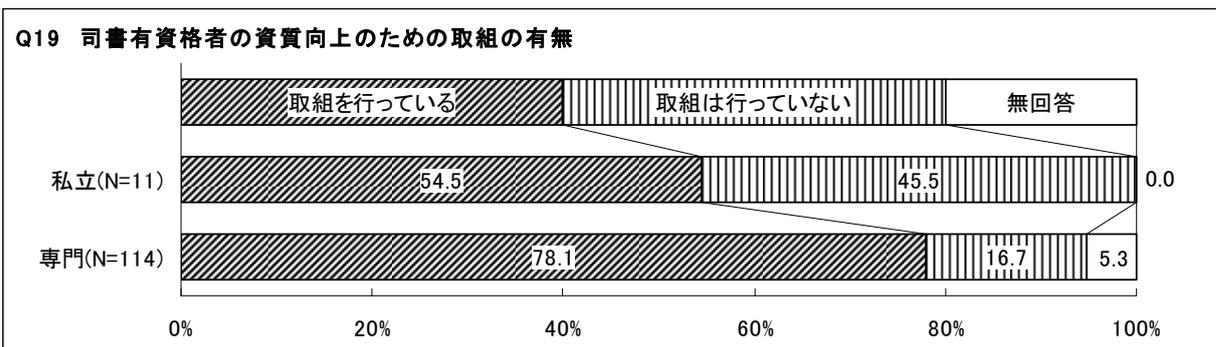
❖ 私立・専門図書館において、司書(補)有資格者の資質向上のために何らかの取組を行っているかを見ると、「特に、(司書(補)有資格者の資質向上のための)取組は行っていない」図書館が 19.2%となっており、資質向上のために「取組を行っている」図書館は7割程度である。



■私立・専門別

❖ 司書(補)有資格者の資質向上のために何らかの取組を行っているかについて、私立・専門別にみると、私立図書館では「取組を行っている」図書館は 54.5%、「取組は行っていない」図書館は 45.5%と、ほぼ二分されている。

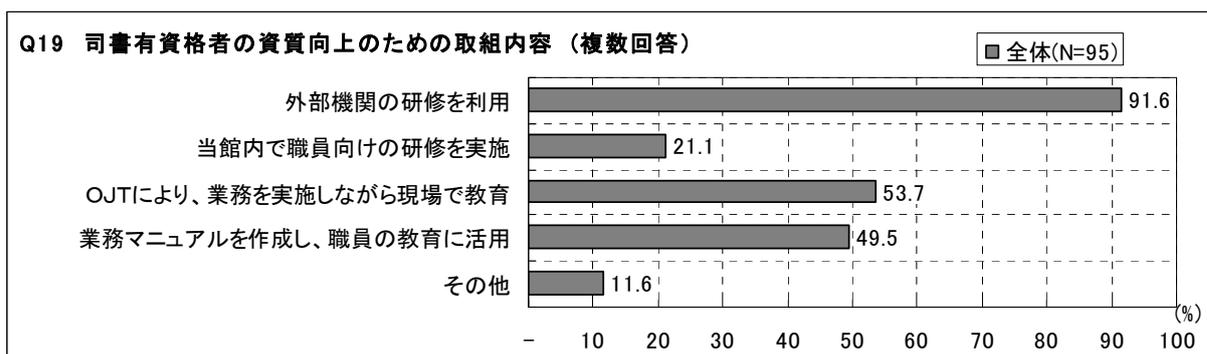
❖ これに対して、専門図書館では、「取組を行っている」図書館は 78.1%、「取組は行っていない」図書館は 16.7%と、専門図書館の方が司書(補)有資格者の資質向上に対して積極的な対策が講じられていることが分かる。



ii) 司書(補)有資格者の資質向上を図る取組の具体的内容

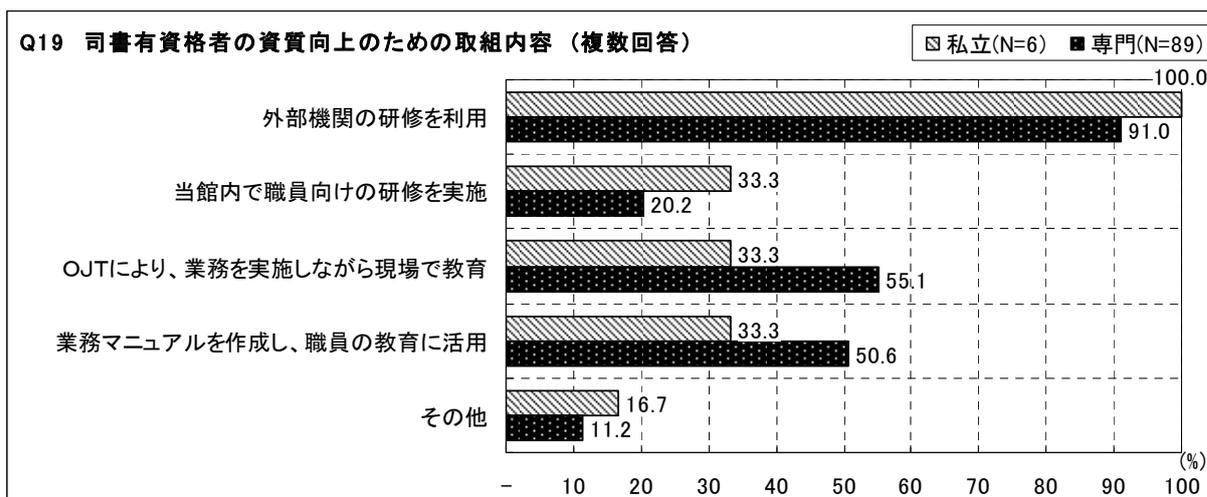
■全体

- ❖ 司書(補)有資格者の資質向上のための取組内容をみると、「外部機関(図書館協議会、情報科学技術協会等)の研修を利用」が 91.6%と最も多く、大部分が外部機関の研修を利用している。また、「OJT(On-the-Job Training)により、業務を実施しながら現場で教育」したり、「業務マニュアルを作成し、職員の教育に活用」している図書館もそれぞれおよそ半数と、比較的高い割合となっている。



■私立・専門別

- ❖ 司書(補)有資格者の資質向上のための取組内容を私立・専門別にみると、「外部機関(図書館協議会、情報科学技術協会等)の研修を利用」する図書館が私立図書館(100%)、専門図書館(91.0%)ともに大半となっている。
- ❖ また、専門図書館については、「OJT(On-the-Job Training)により、業務を実施しながら現場で教育」、及び「業務マニュアルを作成し、職員の教育に活用」している図書館が半数を超えている。

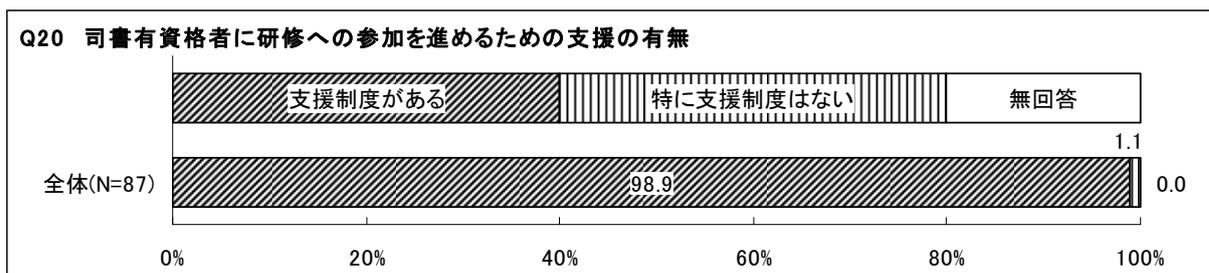


② 司書(補)有資格者の研修への参加を進めるための支援

i) 司書(補)有資格者の研修参加に対する支援の有無

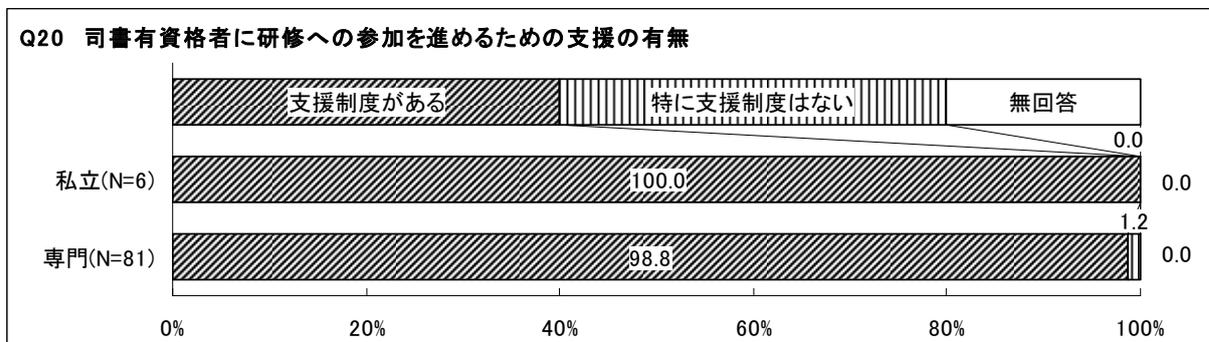
■全体

❖ 司書(補)有資格者の資質向上のために何らかの研修を利用している私立・専門図書館(87館)において、研修への参加を促すための支援の有無をみると、「特に支援制度はない」とする図書館は1.1%と、何らかの支援を行っている図書館が大半となっている。



■私立・専門別

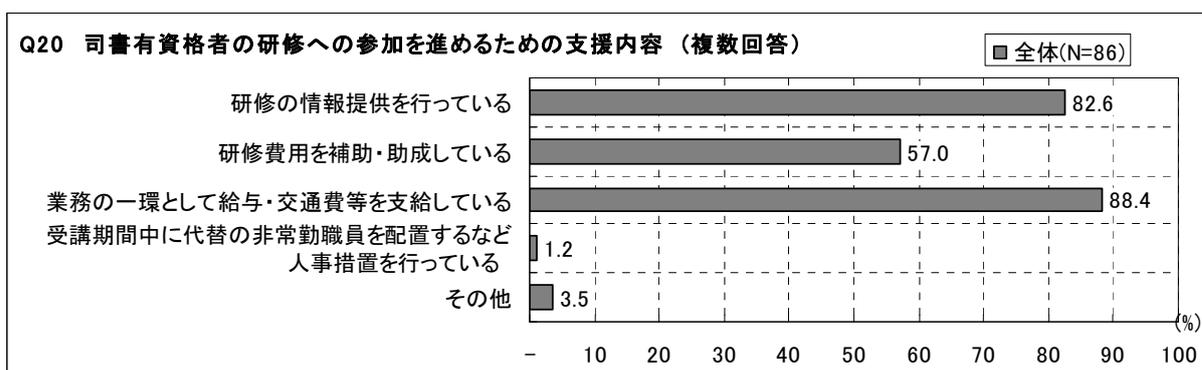
❖ 司書(補)有資格者に、研修への参加を促すための支援状況について、私立・専門別にみると、私立図書館においては全図書館が「支援制度がある」としている。



ii) 司書(補)有資格者の研修参加に対する支援の具体的内容

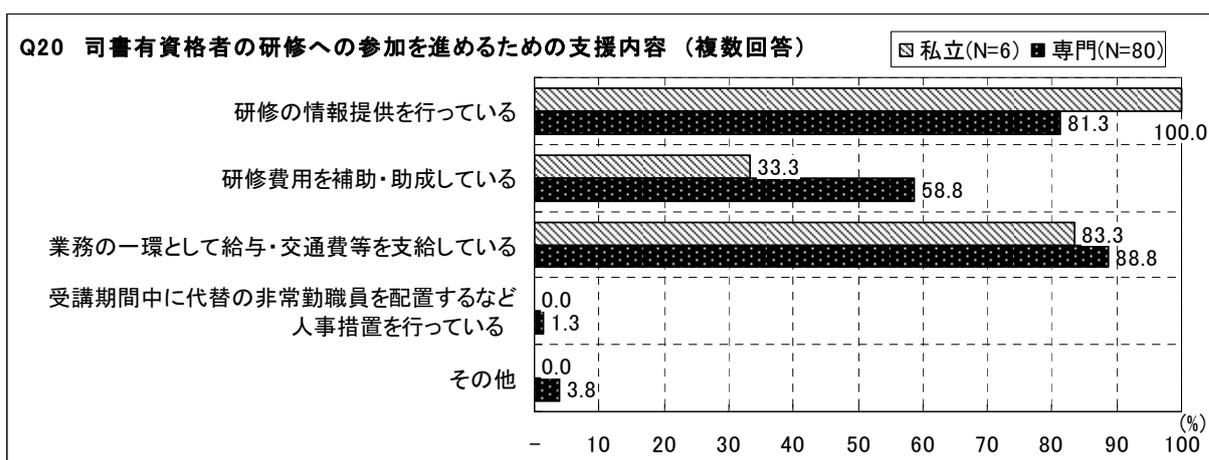
■全体

- ❖ 司書(補)有資格者に、研修への参加を促すための支援の具体的内容をみると、「業務の一環として(休暇扱いにせず)給与・交通費等を支給している」が 88.4%、「研修の情報提供を行っている」が 82.6%と高い割合となっている。



■私立・専門別

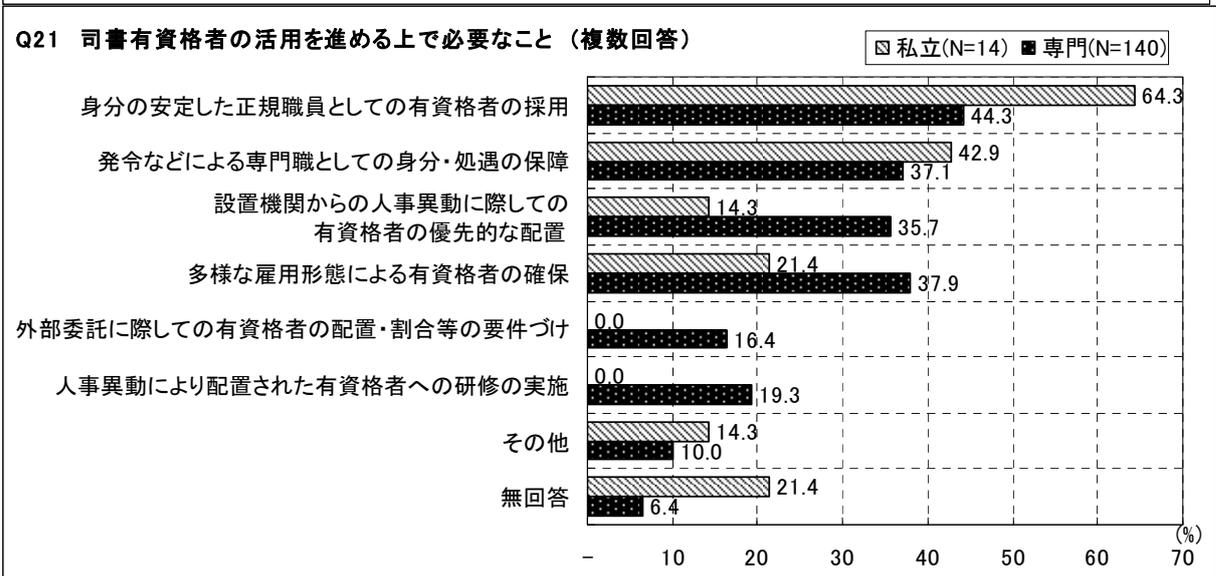
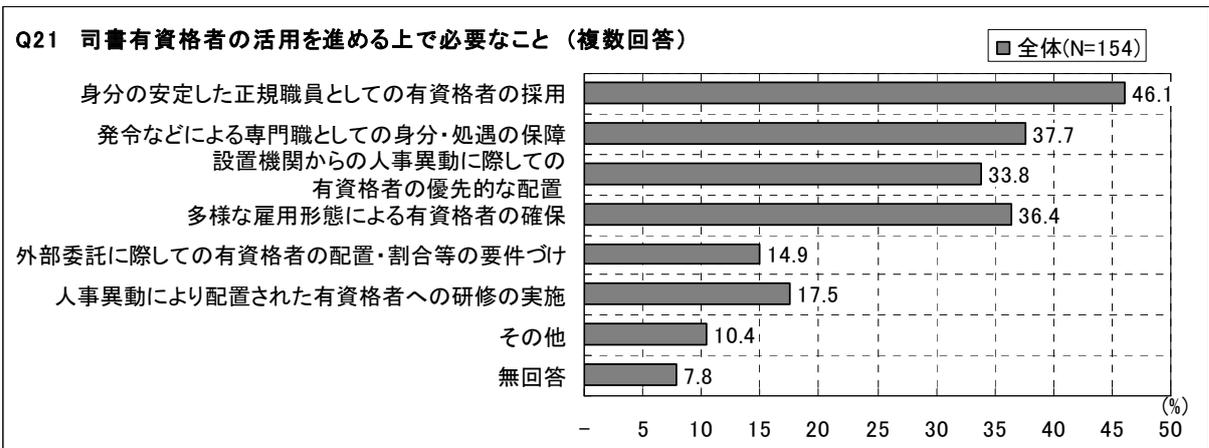
- ❖ 支援内容について、私立・専門別にみると、私立図書館は「研修の情報提供を行っている」図書館が 100%のほか、「業務の一環として(休暇扱いにせず)給与・交通費等を支給している」図書館も 83.3%と多くなっている。専門図書館については、「業務の一環として(休暇扱いにせず)給与・交通費等を支給している」(88.8%)、及び「研修の情報提供を行っている」(81.3%)と8割を超えているほか、「研修費用を補助・助成している」図書館も半数を超えている。



(7) 今後の司書有資格者の活用方策

① 司書有資格者の活用を進める上で必要なこと〔全体及び私立・専門別〕

- ❖ 私立・専門図書館で、司書有資格者の活用を進める上で必要なこととしては、「身分の安定した正規職員としての司書有資格者の採用」が 46.1%と最も高い割合となっている。次いで、「司書としての発令などによる専門職としての身分・処遇の保障」(37.7%)や「(非常勤職員・臨時職員など)多様な雇用形態による司書有資格者の確保」(36.4%)も比較的高い割合となっている。
- ❖ これについて、私立・専門別にみると、「身分の安定した正規職員としての司書有資格者の採用」について私立図書館で 64.3%と特に高くなっている。



② 司書有資格者の活用のあり方

- ❖ 今後の司書有資格者の活用のあり方について自由意見を求めたところ、30館から意見が得られた。
- ❖ 具体的には、司書の資質向上が必要という意見が多く、専門的人材として私立・専門図書館で司書を活用していくには、司書資格自体がもっと高度な能力を保障する制度として確立される必要があるという指摘もあった。また、特に企業内図書館や議会図書館などの場合、適切な選書を行うにしても、設置母体である企業等の業務内容等についての理解がまず必要であるという声も聞かれた。